

三協立山グループ

CSR報告書2015

Sankyo-Tateyama Group
Corporate Social Responsibility Report



Contents

ごあいさつ	P.1 ~	CSR活動の推進	P.11 ~
[特集1]環境技術	P.4 ~	社会性報告	P.15 ~
[特集2]健康経営	P.5 ~	商品における取り組み	P.22 ~
[特集3]ダイバーシティの推進	P.7 ~	環境への取り組み	P.29 ~
[特集4]産業観光振興	P.9 ~	第三者意見	P.47 ~
		三協立山 会社概要	P.49 ~

持続可能な未来のために

わたしたちは、健全な企業活動を通じて信頼を築き、事業を通じて社会の持続可能な発展に寄与することが、CSR（企業の社会的責任）の基本であると認識しています。

2011年に掲げた長期ビジョン2020においては「Life with Green Technology～環境技術でひらく、豊かな暮らし～」をスローガンに、総合建材メーカーとして培ってきた技術やノウハウを活かし、地球環境や社会との調和を図りながら、持続可能な未来の発展に貢献したいと考えています。



代表取締役社長
山下 清胤

社会との調和

生物多様性の保全および地球温暖化防止に向けたわたしたちの社会貢献活動として、「ツインリーフの森づくり」があります。2013年にスタートし、今年で3年目を迎え、今までに1,000本の苗木を従業員とその家族のボランティアで植えました。

また、今春の北陸新幹線開業に合わせ、富山県を代表するアルミ産業をアピールする場として、わたしたちのアルミ製造工場を一般のお客様が見学できるようにしました。累計の来場者数は、約1,600名で、県外者の比率は65%と、地域の産業観光振興に貢献しています。

環境との調和

わたしたちは、1993年に「創ろう美しい地球を」をスローガンに掲げ、地球温暖化防止対策や廃棄物対策、環境負荷低減に貢献できる製品開発など、継続的にレベルアップを図りながら着実に実行してきました。一方で、事業の海外展開の広がりとともに、海外におけるCO₂と廃棄物の削減は、今後の取り組み課題と捉えています。

今後は、海外を含めた環境経営をより進めるために、コーポレートガバナンス体制の中に環境委員会を設置し、地球環境との調和を図っていきます。

人間尊重

年齢や性別などにかかわらず、多様な人材が活躍できるよう多様性の推進を2007年より進めてきました。特に重要視する女性活躍においては、企業認知度向上に向けた取り組みを進めるため、女性推進ワーキンググループを発足。ドラえもんを活用したイベントの企画・実施など、大いに力を発揮しています。

また、従業員一人ひとりの健康は、従業員自身にとっても、企業にとっても大切な財産であり、経営資源の一つです。従業員が健康でいきいきと働くことで、生産性の向上や組織の活性化をもたらし、業績向上や企業価値向上につながると考えます。わたしたちは、従業員の健康を経営の最重要課題の一つと捉え、積極的な取り組みを進めています。

以上の施策について、このCSR報告書にまとめました。わたしたちのCSR活動は、まだまだ未熟ですが、グループ従業員約1万1千人が健康で心を一つにして、持続可能な社会の実現に貢献し、みなさまから支持され必要とされる企業を目指していきます。

経営理念と行動指針

三協立山グループは、創業の原点である「お得意先」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神に基づいた経営理念のもと、健全な企業活動を通じて社会に貢献していくことが、私たちの使命であると考えています。

経営 理念

お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

行動 指針

私たちは

①お客様満足

常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。

②価値創造

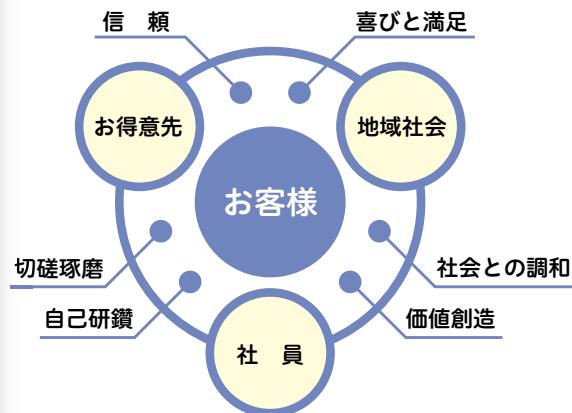
技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。

③社会との調和

環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。

④自己研鑽

自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



CSR憲章

総則

三協立山グループは、社会から信頼されながら、かつ継続的に発展することを望まれる企業となるため、企業の社会に対する責任(CSR:Corporate Social Responsibility)を果たす以下の4つの原則に基づいて行動します。



原則

[1]健全な企業活動

- ①お客様の立場で行動し、お客様の立場に立った商品・サービスを提供します。
- ②法令・企業倫理等を遵守し、公正で自由な競争を行うとともに、公的機関とは透明かつ厳正な関係を維持します。
- ③会社に不利益となる行為を禁止し、反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨みます。
- ④会社の情報、財産、資産およびお客様の情報は、厳重かつ適正な管理を行います。

[2]社会との調和

- ①国内外の文化・習慣を尊重するとともに、社会貢献活動を積極的に行います。

[3]環境との調和

- ①自ら責任を持ち、環境保全活動に取り組むとともに、積極的に地域活動に参画し、社会に貢献します。
- ②環境負荷の少ない商品を優先的に提供するとともに、積極的に技術革新の活用を図ります。

[4]人間尊重

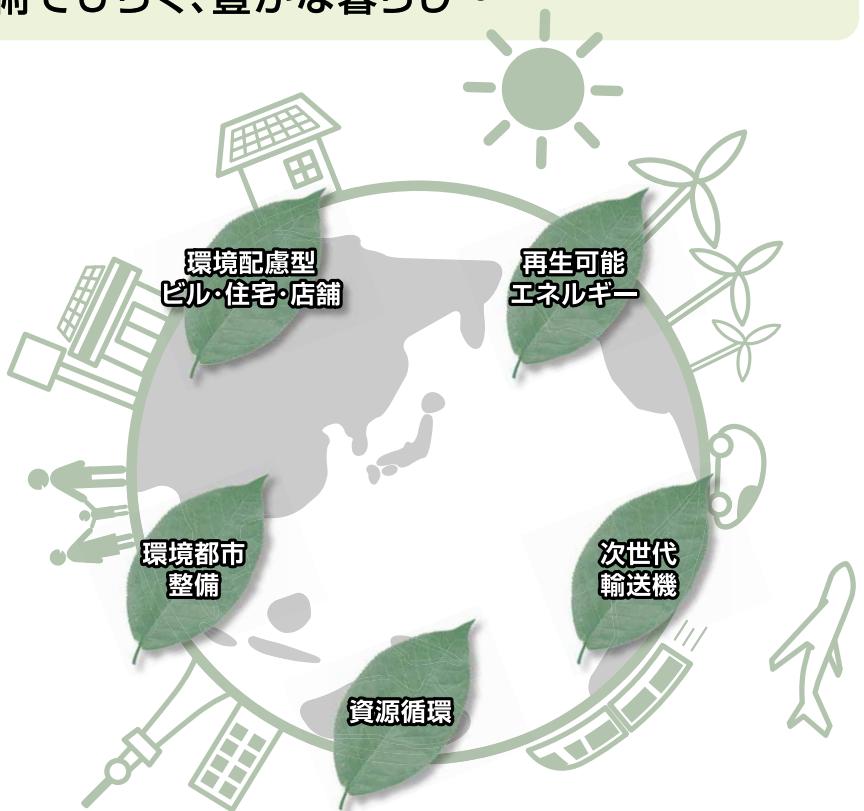
- ①全ての人々の基本的人権を尊重し、安心で健康な働きやすい職場環境を築きます。

Life with Green Technology

～環境技術でひらく、豊かな暮らし～

“Green Technology=環境技術”とは、「地球環境の改善に関わるあらゆる技術」のこと。例えば、省エネ、再生可能(自然)エネルギー使用、CO₂などの温室効果ガス排出削減、水質汚染防止などの環境負荷低減のための活動に用いられるさまざまな技術の総称です。

三協立山グループの技術力を集結し、環境配慮型商品・素材・空間によって新しい価値を創造し、人々の豊かな暮らしを実現する企業グループへ。



玄関ドア

「ラフォース」採風タイプ

窓が少なく風を採り入れることが難しい住まいでも窓を内蔵した玄関ドアから風を住まいに採り入れることができます。



太陽光発電システム

「M.シェード・G-1ss」

カースペースから始まる太陽光発電ライフ。カースペースの有効利用でエコな生活が実現します。



ガーデンテラス

「スマーレ」サイドクローズタイプ 【ルーバー引戸】

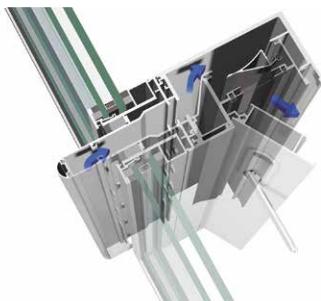
フルオープンはもちろんのこと、施錠しながらルーバー状態にでき、風を採り入れ、夏場の暑さを軽減します。



自然換気システム

「ARM-S@NAV」

「風をつかむ」「風の道をつくる」「風を制御する」といった技術の組み合わせによって、自然の風を効率よく建物に採り込むことができます。



ヒートシンク

「オフセットSSタイプ」

一列おきにフィンピッチをオフセットすることにより、従来の押出形材(くし形)ヒートシンクに比べ大幅に性能を向上させています。



スタンドサイン

LED脱着式バッテリータイプ 「ADO-930N/ 940N-BT」

着脱式バッテリータイプなので、コンセントの無い屋外への設置が可能です。



環境技術

風力発電用ブレードを アルミ押出成型で生産

当社では今、太陽光など自然エネルギーを活用する分野への参入を進めていますが、この度、

風力発電設備メーカー・中西金属工業株様(大阪市 北区 天満橋)の依頼により、風力発電用ブレード(羽根)のアルミ押出成型による生産を実現しました。従来のリベット接合による製法に比べて、部材の組み立てが容易な上、表面が平滑となり空力性能も向上しました。今後、風力発電の一層の普及と効率向上に、当社が培ってきたアルミ押出成型技術が貢献することが期待されます。



平成26年12月に富士市ファミリーパークに設置されたそよ風でも発電できる小型風力発電機。



組み立て容易性を求め、 リベット接合から アルミ押出成型へ

当社はこの度、風力発電設備メーカー・中西金属工業株様からの依頼により、小型風力発電機のブレードをアルミ押出で製作しました。

このブレードは従来、複数の板材を曲げ加工して、リベットで接合して製作していましたが、重量バランスが狂うと、回転にも影響するために、高い組立精度が求められること、翼型形状を確保するのに相当の手間がかかること、また、表面にリベットが出るので無駄な空気抵抗が生じるなどの課題を持っていました。そこで誰もが簡単に組み立てができるような部材の製造方法として、アルミ押出成型に白羽の矢が立ったのです。

「一般にアルミ押出成型は、技術的な制約のため、部材が薄くなるほど難しくなります。しかし、風力発電用の軽く強いブレードを実現するために、私たちは薄さの限界に挑戦しました。具体的には、さまざまな薄さの断面形状を検討し、その形状で押出成型が可能なのか、成型が可能でも強度は保てるのかといった試行錯誤を繰り返しました」と開発に携わった当社・大塚敬成は、薄さと強さを両立させることが最大のポイントだったと回想します。



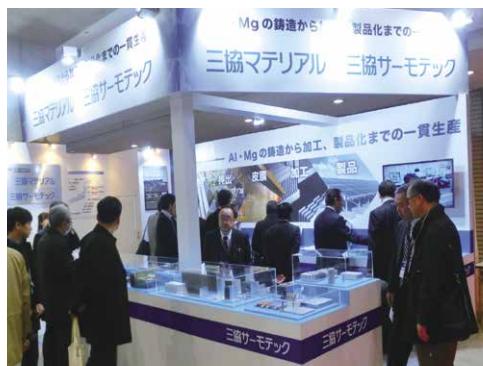
三協マテリアル社
商品設計部 商品設計課
大塚 敬成

どのような製品開発にも アルミの優れた特性を活かしてチャレンジします

2013年4月から約2年間の試行錯誤を経て、軽くかつ十分な強度を持つ美しい流線型断面のブレードを成型することに成功。当初約3ミリだった部材の厚みは、1.3ミリにまで薄くなっていました。

試作品ができた段階で、当社において強度試験を実施、細かな調整を行い、開発は完了しました。新しい部材は両端をふさぐ程度の加工でブレードが完成するため、リベット接合に比べ、生産効率は一挙に4倍になりました。

アルミは、軽く、鋸びにくく、リサイクルも容易な金属です。また、硝子はもちろん、プラスチックやステンレス等、ほかの素材との組み合わせや、多様な表面加工もでき、さまざまな用途展開が可能です。また、アルミ押出成型は、組み立て方法までも考慮した複雑な形状を持つ部材を大量に生産することが可能な技術です。今後も私たちは、こうしたアルミの特性と生産ノウハウを活かして、風力発電用ブレードや太陽光発電用架台はもちろん、どのような製品の開発にもチャレンジしていく考えです。



各地の展示会に、風力発電用ブレードや太陽光発電用架台、放熱部材ヒートシンクなどを出し、多くの方々に当社グループの環境技術をアピールしました。

「健康経営」で誰もが いきいきできる職場を目指す

当社の社名にある「三協」とは、お得意先、地域社会、そして社員の三者が協力して繁栄していこうという意味です。そしてまた、従業員が心身ともに健康であることは、業績向上の要です。そこで当社では2007年から本格的にワーク・ライフ・バランスへの取り組みをスタート、心身の「健康」を経営の最重要課題の一つと捉え、仕組みや制度の充実、意識改革に努めています。



総務人事統括室
人事部長兼安全衛生部長
数川 雅敏

制度と雰囲気の両面から長時間労働を防止

私たち人事部がまず取り組んだのが、「休日の空ってこんなに青かったの」とか「休むって必要なんだよね」といった、毎月のスローガンの発信です。私生活も仕事と同様に大切であることに気づいて、自主的に残業を減らし、有休を取得してもらいたいと考えたからです。また、ノー残業デイを週1日から2日に増やしました。

さらに、有休取得率を40%から50%にするという目標を掲げ、達成に向けて、あらかじめ有休の取得予定を職場に掲示することにしました。フレックス休暇、メモリアル休暇といった名前も付けて、雰囲気づくりもしました。

並行して、労使協定や関係法令を管理職に徹底するための労務管理研修会を全拠点でスタートしました。また、工場部門で行われていた労使協議会を本社・支店に水平展開し、なぜ残業が多いのか、なぜ有休の取得が少ないのであるのかを必ず職場単位でチェックすることとし、サービス残業の撲滅、業務の適切な分担を

図るようになりました。また、この間、2008年には会長名で「ワーク・ライフ・バランス宣言」を行い、全社的な取り組みであることを確認しています。

かつては、滅私奉公的な長時間労働が尊ばれた時代もありましたが、時代は変わってきています。会社には仕事と私生活を両立できる制度や仕組みの構築が求められています。これは社員の私生活の充実が仕事の活力につながるからです。

「心」と「身」の健康への取り組み

メンタルヘルスという言葉が社会的に認知されてきた2005、6年頃から、当社でもメンタル面の不調による相談件数や休職者が僅かずつですが増加してきました。そこで、労務管理研修会でもメンタルヘルスをテーマとして取り上げ、管理職に心の病気についての知識を深めてもらいました。

また、社内にはすでに心身の不調について看護士に相談できる体制がありました。加えて社外にも電話による24時間対応のカウンセリングサービスを整えました。2015年からは、より具体的な対策に取り組んでいくため、部門ごとのストレスの特徴を調べています。

まじめな方が心の不調に陥る場合が多く、少し回復するとすぐに復職してしまい、再発してしまうことが多いのです。そこで、復職時の回復確認手順に産業医の診断を加えるなど、職場環境の整備はもちろんですが、万一罹患した場合でも十分な回復期間を取得できるようにしています。

心身の「身」の面では、健康診断で要検査とされた方に再受診を働きかけており、90%以上の社員が再受診を受けています。引き続き100%の再受診率を目指していきます。また、健康保険組合と連携し、データに基づいた健康管理に取り組んでいく予定です。

ワーク・ライフ・バランスの推進

当グループでは、従業員が健康で、仕事と生活の調和が取れ、能力を十分に発揮できる働き方ができこそ、大切なお客様により良い製品とサービスが提供できるという考え方から、従業員の仕事と生活の両立支援に取り組んでいます。

仕事と生活の両立支援制度

- 育児短時間勤務制度(子の小学校3年生の学年末まで)
- 介護短時間勤務制度(3年間利用可能)
- 在宅勤務制度

過重労働防止の取り組み

- ノー残業デイの実施(毎週水・金)
- 有休計画付与の実施(フレックス3日+メモリアル2日+促進日2日)
- 職場労使協議会の実施。残業・有休のチェック
- 勤務時間選択制度の実施(出社時間3パターンから選択)

ノー残業強化デイ職場パトロールの実施

従業員の心身の健康を保持するため、毎週水曜日と金曜日を全社員残業ゼロの日と決め、職場パトロールを実施しています。管理職者が18時～18時半に各職場を巡回し、残業者がいれば帰宅を促しています。



お父さんも
育児休業制度を
利用しています

4歳の男児、2歳の女児に続いて3人目が生まれることになり、私が上の子の面倒を見る必要があるため、育児休業を取得することになりました。近くに預ける所がなく、前の子の時の経験で、走り回る子供と赤ん坊を同時に育てるのがいかに大変かがわかつっていましたので、私から会社を休んで育児を手伝うことを妻に言いました。

半年ほど前に上司や人事部にも相談し、また、職場での理解を得られるよう、同僚にも育児の事情を話しました。私の業務は生産管理のシステム開発ですが、幸い、育児休業に入るのがプロジェクトの端境期であったため、特に問題なく取得できると思ってはいたのですが、男性で育児休業を取得する例がまだ少ないと聞かれた。人事部からは、男性が育児休業を取得すれば女性も取得しやすくなるし、家族が協力して育児を行う時代だからと、取得を奨励されました。

2015年3月から6ヶ月間の育児休業に入りましたが、育児は毎日やると、たまにやるのでは違つたことがわかりました。たまの休日に子供の相手をすると、可愛いので叱ることもなかったのですが、毎日面倒を見始めると、やはり、叱らないといけないことがわかります。子供は日々成長していますから、いけないことをしたらその時すぐに叱らないと、次という機会はないと思った方がよいのですね。お母さんが毎日、子供にガミガミ言う気持ちがわかるようになりました。朝はご飯を食べさせ、4月からは保育園への送り迎えをし、夕方に3人を風呂に入れと、子育ては思ったよりも大変ですが、仕事とはまた違う充実感があります。

4月からは、2歳の女児も保育園に行くようになり、昼間少しだけ自分の時間を作れるようになりました。この時間を利用して、会社が推薦する通信教育を受講しています。休業中であっても、少しでも仕事の関わりを意識していきたいと思います。子供が保育園にいる数時間しか自分の時間はありませんから、時間がいかに貴重かも実感しています。復職後は時間をもっと有効に使うようにしたいと考えています。



情報システム統括室
システム開発部 開発三課
前田 賢

三協・立山ホールディングスグループ 『ワーク・ライフ・バランス宣言』 —長時間労働を削減し、仕事と生活の調和を実現しましょう—

三協・立山ホールディングス株式会社
代表取締役会長
川村 人志

ワーク・ライフ・バランスとは、仕事(Work)と生活(Life)の調和(Balance)を図ることです。従業員が、健康で意欲を持って仕事に取り組めるようにするために、仕事時間と生活時間のバランスが取れるようになることが不可欠です。

メリハリをつけて働き、リフレッシュする時間を持つことが、新しい付加価値を創造します。働きすぎの頭から新しい発想は生まれません。

また、従業員が満足する働き方ができ、元気にその能力を十分に発揮できこそ、大切なお客様により良い製品とサービスが提供できます。

さらに、ワーク・ライフ・バランスの取り組みは、家庭生活はもちろん、ボランティア活動参加など地域社会への貢献という意義もあります。

私たち三協・立山ホールディングスグループは、労使協力の下、長時間労働を削減し、仕事と生活の調和の実現に向けて、以下の行動を推進することを宣言します。

1. 仕事と生活の調和の重要性を認識します。
2. 健康を害するような長時間残業を撲滅します。
3. 年次有給休暇の取得を促進します。

健康活動

職場における健康診断は、従業員の健康状況を把握するための基本となる対策であり、疾病の早期発見に重要な意義があります。健康診断結果をもとに、再受診の勧奨や、保健指導などのフォローを行っています。特に近年は、メタボリックシンドロームやその予備軍の従業員が増加しているため、保健指導による改善意識の高揚に努めています。

また、作業環境チェックを行い、従業員の健康障害を防ぐための適切な措置を講じています。

疾病予防の取り組み

- 定期健康診断の実施(毎年3月)
- 婦人健診(集団健診)の実施(毎年10月)
- 特定健診(メタボリックシンドローム予防)の実施
- 生活習慣病予防のための減塩食の実施
- 生活習慣病予防セミナーの実施(本社&県内全工場)
- インフルエンザ予防接種補助の実施(毎年12月)
- 長時間労働者への産業医面談の実施

健康保持促進の取り組み

- さくらウォークへの参加(毎年4月:富山市主催)
- 富山県民歩こう運動推進大会への参加(毎年9月:富山県主催)

メンタルヘルスケア

当グループは、「安全第一」と「健康保持増進」を理念として掲げ、基本活動においても「心の健康づくり活動の強化」を盛り込み、厚生労働省が提唱する「4つのケア」※を主体に取り組んでいます。

- ※メンタルヘルス
「4つのケア」
- セルフケア
 - ラインによるケア
 - 事業場内産業保健スタッフ等によるケア
 - 事業場外資源によるケア

メンタルヘルスケアの取り組み

- 健康・メンタルヘルス相談窓口の開設(外部委託)
- メンタルヘルスケア研修会の実施(毎年)
- メンタルヘルスセミナーの実施(毎年、管理職)
- メンタルヘルスチェックの実施(毎年、2015年3月からスタート)



メンタルヘルスセミナー

3 ダイバーシティの推進 多様な人材が活躍できる 風土づくりを目指して

当社では、2007年よりダイバーシティ推進専任部署(多様性推進課)を設置し、多様な人材が活躍できるよう、さまざまな取り組みを行っています。2014年度は、企業認知度向上を目的とした女性推進ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、ショウルームへの集客イベントなどを実施しました。WGのメンバーに、主な活動を振り返ってもらいました。



ショウルームのキッズコーナー充実 なつやすみ親子工作教室の開催

宮越 当社は2014年より、国内外で人気の高い「ドラえもん」を宣伝・販促キャラクターに起用しています。女性推進WGとして、まず私たちが最初に取り組んだのは、全国に6ヶ所あるショウルームのキッズコーナーの充実です。首都圏ショウルームでは、ドラえもんを活用し好評を得ています。また、子供はもちろん、大人も入ってみたいとなる「どこでもドア」も全国のショウルームに設置しました。

お子様連れのお客様にゆっくりと商品をご覧いただくことはもちろんですが、「楽しい、また来てみたい」と思っていただけるようなショウルームにするために、「もし自分がお客様だったら」というスタンスで取り組みました。

また、高岡ショウルームに来ていただくきっかけとして、夏休みに小学生を対象とした親子工作教室を開催しました。これはドングリ、小枝などの自然素材を使って自由に好きなものを作るというイベントで、子供達は想像力を發揮し、それぞれ工作に熱中していました。夏休み中、本社の周辺地域の方々と交流を深めた一日になりました。

「未来のとびらコンテスト」の開催

此川 小学生にどうやって情報発信すればよいか等、何もわからないままスタートしました。当初、作品が集まるだろうかと不安でしたが、小学生向けの新聞への告知や全国の支店の皆さんの協力もあって、2,000点を超える応募がありました。きっかけは口コミが32%と多く、やはり人に伝えたくなるような夢のあるテーマだったことがよかったです。

また、審査では390名もの社員に参加してもらいました。各方面から、「楽しい企画なので、ぜひ続けて欲しい」等の声援をいただき、本当にやっ

てよかったです。

元平 私は、コンテストの金賞受賞者の特典である一泊二日ツアーを担当しました。今回のツアーは、川崎市の藤子・F・不二雄ミュージアムと当社がリニューアルに関わった東京駅ステーションホテルの見学で、ホテルでは表彰式を行いました。

ツアー前に配布した「旅のしおり」や、バスツアーでのクイズ大会、夕食会で流した「サンクスマービー」など、参加してよかったですと思っていただけるように、全てにわたって細かな配慮で準備をしました。

永井 「サンクスマービー」は、審査風景や社員からのメッセージ、当日の受賞ツアーの様子などをまとめたものです。元平さんが当日の様子を表彰式会場で追加編集し、夕食時に放映しました。参加者の皆さんに大変喜んでいただけたことができ、後日、お礼のお手紙まで頂戴した時は本当に嬉しかったです。

杉本 私はホテルでの館内ツアーを担当し、当社が手がけた窓の説明をしました。これは東京駅の復原工事の際、初代の建物に設置されていた木製窓枠を当社がアルミで再現したもの。表面加工で木の風合いを出しているとの説明に、子供たちもとても感心していました。

ショッピングセンター等でのイベントの開催

近藤 家族連れが集まる場所で商品や当社のことを知ってもらいたいと考え、昨年9月に名古屋市内の大型ショッピングセンターでのイベントを企画しました。また、名古屋ショウルームでのフェアと連携し、ショウルームへの集客もねらいました。

ショッピングセンターでは、玄関ドア、人工木デッキなどの商品展示、ドラえもんのぬいぐるみが当たる抽選会などを行いました。アンケートでは「楽しかった」「参考になった」といった主旨のご意見が多く、92%の方にご



女性推進WGメンバー(左から) 広報・企画統括室 永井 奈津子 三協アルミ社 ビル事業部 杉本 亜希子 国際事業統括室 国際事業推進部 此川 茜 三協アルミ社 事業統括部 事業管理課 三箇 さやか 三協アルミ社 事業統括部 販売推進課 村本 友美 三協アルミ社 住宅建材部 住宅建材課 近藤 優代 三協アルミ社 エクステリア建材部 営業サポート課 元平 絹代 三協アルミ社 商品企画部 商品企画課 宮越 香織



「未来のとびらコンテスト」表彰式の様子



「なつやすみ親子工作教室」の様子

○2015「未来のとびらコンテスト」

小学生版サイト <http://alumi.st-grp.co.jp/doraemon/2015contest/index.html>

大学生版サイト <http://alumi.st-grp.co.jp/kenchiku/index.html>

満足いただきました。名古屋ショウルームでも、「スタンプラリーでドラえもんグッズ&富山旨いもんが当たる大抽選会」などを実施、多くのご来場がありました。

当社ではこうしたイベントの開催は初めてでしたが、目標以上の方々にご来場いただくことができ、認知度向上につながったと感じています。また、名古屋ショウルームでの経験を生かし、昨年12月には富山ショウルームのリニューアルオープニングイベントにも携わりました。今後も地域特性を生かしながらショウルームの集客アップにつなげていきたいです。

今年は大学生版「未来のとびらコンテスト」も開催

宮越 女性推進WGでは普段は経験できない業務も多く、自分たちの成長につながります。今後も取り組みを継続することが大事だと思います。

永井 「未来のとびらコンテスト」は今年も7月からスタートします。今回は小学生版に加え、大学生版のデザインコンペも併せて開催します。女性推進WGメンバーは通常業務もあるため、イベントが続くと準備が大変ですが、今年も全員で力を併せて頑張りたいと思います。

元平 大学生版は、建築・デザインなどを学ぶ学生を対象に「ずっといたくなる家」「ずっといたくなる図書館」をテーマに、新しい建材提案も含めたデザインコンペティションを企画しました。

村本 今からどんな作品が集まるかわくわくします。私は今年から女性推進WGの事務局として参加していますが、皆さんそれぞれ本来の業務をこ



ショッピングセンターでのイベントの様子

なしながらWGにも精力的に取り組んでいて、すごいなと感じました。これらの皆さんとの仕事がとても楽しみです。

三箇 私も今年からメンバーに加わりました。私は小学生版「未来のとびらコンテスト」を担当していますが、今年度の新たな取り組みとして、受賞者へのプレゼント用アルミ製オリジナルドラえもんメダルの制作にチャレンジしました。現在制作中ですが、素敵なメダルに仕上げて、受賞者の皆さんに喜んでいただきたいです。女性推進WGメンバーとしていろいろな経験をすることができ、とてもやりがいを感じています。(2015年6月収録)

ダイバーシティの推進

年齢や性別などにかかわらず、多様な人材が活躍できるよう、人事部多様性推進課が中心となり、女性活躍の推進や障がい者雇用など積極的な取り組みを行っています。

女性従業員の活躍推進

女性活躍に向けて、次のリーダーを目指す中堅女性従業員を対象に、キャリアデザイン研修、またその上司を対象に、その女性従業員の自律的キャリア形成をサポートするための研修(キャリア形成支援者研修)を行っています。



キャリア形成支援者研修

一般事業主行動計画 4期 策定

社員が仕事と生活を両立させることができ、社員全員が働きやすい環境を作ることによって、全ての社員の能力を十分に発揮できるようにするために、以下の行動計画を策定しています。

計画期間 平成27年4月1日から平成32年3月31日までの5年間

内 容

- 目標1:** 有給休暇取得促進として、有給休暇取得率が低い部門の改善を図る。
- 目標2:** 仕事と育児・介護の両立のための新たな支援策を検討する。
- 目標3:** 育児・介護を担う社員が柔軟な働き方ができるよう、制度の改定を行う。

「一般事業主行動計画」とは

急速な少子化の流れを変えるため、次世代育成支援対策推進法で、企業の従業員数に応じて、従業員の仕事と子育ての両立を支援するために、その行動計画を策定し、都道府県労働局にその旨を届け出ることが義務付けられているもの



障がい者雇用と活用

障がい者雇用については、企業の社会的責任として法定雇用率(2.0%)以上を目指し、「障がい者合同面接会」などを活用し、今年度は2名の採用を行いました。

4 産業観光振興 工場見学受け入れ開始で 地域の産業観光振興に貢献

2015年春の北陸新幹線開業に絡み、産業観光を通じた地域活性化策の一環として、2014年4月より一般のお客様へのアルミ工場見学の受け入れを開始しました。富山県にある、「溶解・鋳造」「押出・表面処理」「加工・組立」の3工場の見学会が可能です。これまでに、県内外から幅広い団体の方にお越しいただき、富山を代表するものづくりのアルミ産業をアピールしています。ビルや住宅の窓がどのように作られているのか、ご興味のある方は、ぜひ当社アルミ工場へお越しください。

ここが
見どころ

当社の工場見学コースは、製造ラインと見学通路が隔離されていないため、機械の音やにおい、熱気など、実際の現場がそのまま体感できます。

特に射水工場では、アルミ形材を60mの長さに押し出す工程や、形材を薬品プールに浸けて表面処理を行う工程など、ダイナミックな作業現場を間近に見ることができます。また、機械による自動化が図られている様子もご覧いただけます。



原寸大のアルミビレットの断面をイメージした、工場案内パンフレット

アルミ製品の製造プロセス

奈呂工場 溶解 / 鋳造

世界最高水準の鋳造機を備え、アルミ地金の溶解から鋳造までを効率的に生産するアルミビレット鋳造工場です。
※アルミビレット：棒状のアルミのかたまり

溶解

溶解炉へアルミ地金とアルミ再生材を投入し、780°Cの温度でアルミを溶解します。

鋳造

溶けたアルミ合金は、鋳型に流れ、円柱形のアルミビレットに鋳造されます。

射水工場 押出 / 表面処理

高品質を維持する優れた生産ラインで、アルミビレットの押出、切断、熱処理、表面処理、梱包までの工程が自動制御により管理されています。

押出

アルミビレットを500°Cに加熱し、そのビレットを後方から1,500～6,000tの力で押し出し、金型を通り抜けることでアルミ形材が作られます。

表面処理

押し出されたアルミ形材は「アルマイト」と呼ばれる表面処理を行います。

新湊工場 加工 / 組立

フルオーダーメイドの受注生産工場で、超高層ビル用製品を中心に、特殊物件サッシなどを生産しています。

加工

自動切断機では、毎日約1万本のアルミ形材を切断し、自動で仕分けします。NC加工機では、バーコードの読み取りにより複雑な加工を自動的に行います。

組立

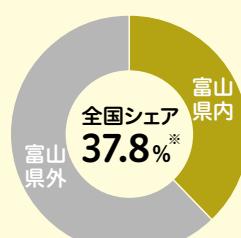
加工されたアルミ形材にさまざまな部品を取り付け、最終製品に組み立てます。

富山は、アルミサッシの出荷額No.1！

東は北アルプス後立山連峰、西は石動山・俱利伽羅峠、南は飛騨地方との境の山陵・峡谷と三方を深い山に囲まれつつ、残る北側は魚介の宝庫・富山湾に向ける富山県、その豊かな自然からは想像しにくいかにも知れませんが、大規模な製造業が集まる工業県でもあります。1964年に富山・高岡地区が新産業都市に指定されてからは、富山新港が開港し臨海工業地帯が整備されたこともあって、日本海側屈指の工業集積地として成長してきました。

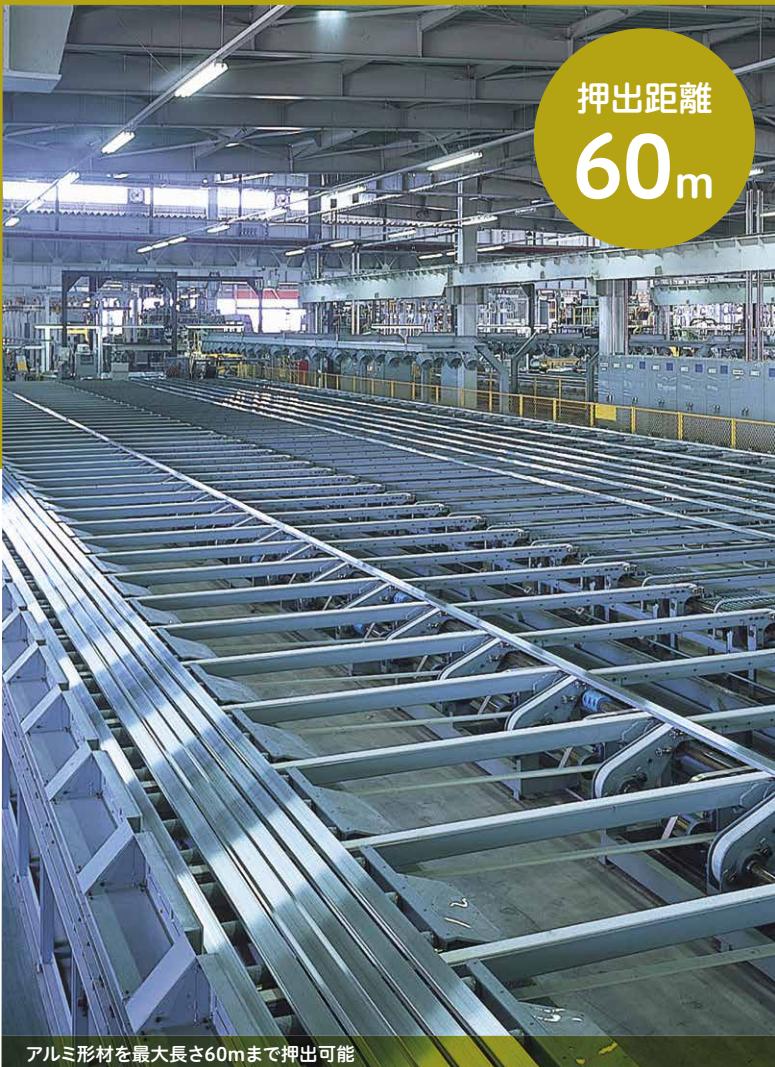
最近の製造品出荷額(2013年)によると、化学工業(医薬品など:16.4%<全国平均 9.4%>)と金属製品(アルミ建材など:10.9%<同 4.5%>)のウェイトが特に高いことがわかります。医薬品が「越中富山の薬売り」に端を発するように、アルミ建材も豊富な水資源と安価な電力を背景にしつつ、高岡銅器の伝統と技術的素地の上に発展してきたものです。

現在、富山県には当社はじめ多くのアルミ関連企業が集積しており、アルミサッシの出荷額では全国一(2013年の全国シェア37.8%)を誇っています。

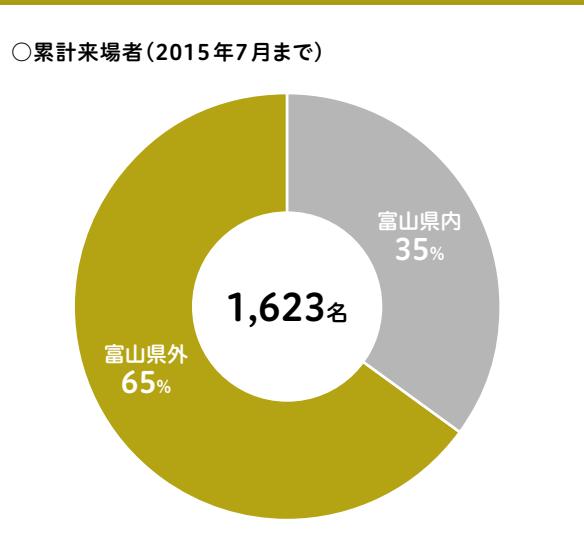


※2013年
アルミサッシの出荷額

※アルミサッシ:住宅用アルミニウム製サッシ



アルミ形材を最大長さ60mまで押出可能



「アルマイト」と呼ばれる表面処理で強く美しいアルミ形材に

見たことがないアルミの「驚き」を体感

射水工場の見学コースをご案内します

1 概要説明

当社の概要と見学していた
だく製造工程について、パン
フレットやDVD映像で説明
いたします。



2 アルミビレット

押出工程では、奈良工場で
作られたアルミビレットを使
用します。



3 押出工程

加熱したアルミビレットを後
方から押し出し、金型を通り
抜けることでアルミ形材が
作られます。



4 表面処理工程

アルミ形材を、薬品に浸し電
流を流すことで、強く美しい
酸化アルミの皮膜が形成さ
れます。



○見学された方の感想

機械が手の届く所を行き来し臨場感
を感じた。熱やにおいなども感じられ
良かった。

大変な作業の上に、私たちの家庭に
製品が届くと知り、素晴らしいと
思った。

電気と水が沢山使われ、リサイクル材
が40%も使われていることは勉強に
なった。

「詳しくは、こちらをご覧ください」

[三協立山ホームページ「工場見学」]

<http://www.st-grp.co.jp/company/factory.html>

CSR※活動の推進

三協立山グループは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、CSRの推進により、社会からの信頼確保に努めています。

※CSR:Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)

CSR活動実績

CSRにかかわる活動は、関連部署で各々推進しています。2014年度の主な活動項目は、下表の通りです。2015年度も関連部署でCSR活動に取り組み、レベルアップを図っていきます。

CSR憲章	要素	活動項目	目標・方針など	実施事項	自己評価	該当ページ
健全な企業活動	CS (Customer Satisfaction: 顧客満足)	顧客満足向上活動の推進	CS意識向上と行動の徹底	CS単位活動に289チームがエントリーして活動を推進 優秀事例を表彰して社内公開し、水平展開を図る		P19
	顧客要望に応える商品の提供	使いやすさを追求した商品の提供	UD設計検討書、ユーザーチェックリストでの評価実施 (UD:ユニバーサルデザイン)	UD設計検討書、UDユーザー評価会で26テーマについて評価を実施		P22
	コンプライアンス	CSR・コンプライアンスの再徹底	CSR・コンプライアンスの理解度の向上	階層別研修会、新任支店長研修会、コンプライアンスリーダー研修会を実施 従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行		P13
	コーポレートガバナンス	内部統制の有効性・効率性の向上	内部統制・リスクマネジメントおよび内部監査活動の一元的管理	会社法内部統制システム基本方針を制定している子会社7社について、社内規程の制改定を実施		P12
	リスクマネジメント	リスク管理の推進	内部統制委員会による状況モニタリング	半期ごとの内部統制委員会でリスク再評価結果を報告		P12
	情報セキュリティ	お客様情報の管理の徹底	お客様情報漏洩事故発生件数ゼロ	個人情報などの漏洩事故の発生無し 子会社へのセキュリティ研修を実施		P14
社会との調和	コミュニケーション	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	四半期決算に則した投資家対応の強化	機関投資家への戸別訪問や電話取材対応を実施 四半期ごとの決算短信をホームページに掲載		P21
	社会貢献	社会貢献活動を重んずる企業風土の醸成	助成の推進	地元野球球団へ協賛金拠出 広島市豪雨災害義援金を拠出 平成の御車山製作、射水神社式年大祭記念事業などへ寄付金拠出		P17
		地域に根ざした社会貢献活動の推進	積極的な参加	産業観光振興のための工場見学受け入れ 全社一斉「ごみゼロ活動」の実施 高岡・射水地区自衛消防訓練大会、富山県「交通安全チャレンジ1・2・3運動」などに参加		P9 ～P10 P15 ～P16
環境との調和	環境保全	環境保全活動の推進	CO ₂ 排出量を2011年度比2014年度生産量原単位全体で3%削減	2014年度CO ₂ 排出量原単位は、2011年度比4.2%削減		P35 ～P36
	環境商品・技術	環境配慮商品の開発推進	断熱性能向上商品、換気・通風に配慮した商品開発の推進	断熱2商品、自然採風2商品を開発		P23 ～P25
		省エネ・代替エネルギー対応商品の開発	LEDを光源として使用したサインの商品化展開	LEDを光源とした薄型スタンドサイン、突き出しサインを商品化		P27
人間尊重	組織・人づくり	ダイバーシティの推進	障がい者雇用率2.0%以上	障がい者雇用率 1.9%		P7～P8
	安全衛生	心身の健康度の向上	定期健康診断有所見者の再受診率100%	定期健康診断再受診率 90%		P5～P6

目標・方針など達成 目標・方針など概ね達成 目標・方針など未達成

コーポレートガバナンス※

三協立山グループは、株主およびその他ステークホルダー、そして社会からの信頼を築き、ともに発展していくことを経営の基本方針としており、そのために、コーポレートガバナンスの強化を図り、企業価値の向上に努めることができます。経営の重要な課題の一つと位置づけています。

具体的には、グループ経営計画および経営戦略を策定し、グループ会社の指導・監督を行うとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たし、透明性を確保していくことが当社の重要な役割であると認識しています。また、当社が担う事業領域と機能の中で明確な事業責任を負い、市場競争力をより一層強化することでグループ全体の価値向上を図っていきます。

なお、当社は、コーポレートガバナンス体制の更なる強化を図るため、平成27年8月27日開催の定時株主総会をもって、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行いたしました。

※コーポレートガバナンス：企業統治

コーポレートガバナンス体制の状況

取締役会、経営会議

取締役会は、取締役(監査等委員である取締役を除く)9名、監査等委員である取締役5名で構成されています。当社グループおよび当社の経営に関する重要事項を決定するとともに、基本的な経営戦略の決定と経営全般の監督、グループ全体の経営課題およびグループ各社の重要な事項について審議を行っています。当社は、執行役員制・事業役員制を導入し、業務執行責任の明確化と意思決定の迅速化を図っています。また、事業年度に関する責任を明確にし、緊張感を持って経営にあたるとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役(監査等委員を除く)および執行役員ならびに事業役員の任期を1年としています。取締役会は代表取締役社長が議長となり、取締役に加え、事業の状況把握を迅速に行うため、当社の社内カンパニーである三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社の各カンパニー社長が出席しています。

また、当社は取締役構成員のほか、各事業責任者および部門統括責任者で構成する経営会議を設置し、当社経営の基本方針に関する事項ならびに個別重要な事項についての審議、決定と共有を行っています。

内部統制、リスク管理体制の状況

内部統制システムの構築・運用、J-SOXへの対応

当社は、取締役会決議による「会社法内部統制システム基本方針」に従い、グループ全体で内部統制システムの充実を図っています。

当社および当社グループの実効性ある内部統制システムの構築を図るために、経営監査部が事務局となり、経営会議の中に内部統制委員会を設置し、諸施策の審議および実施状況の管理を行っています。また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度(J-SOX)に対応するため、財務報告の信頼性を確保する内部統制の評価ならびに整備推進を経営監査部が継続的に実施しています。

リスク管理の基本的考え方と体制の構築

当社は、リスク管理の実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保していくことをリスク管理の基本方針としています。

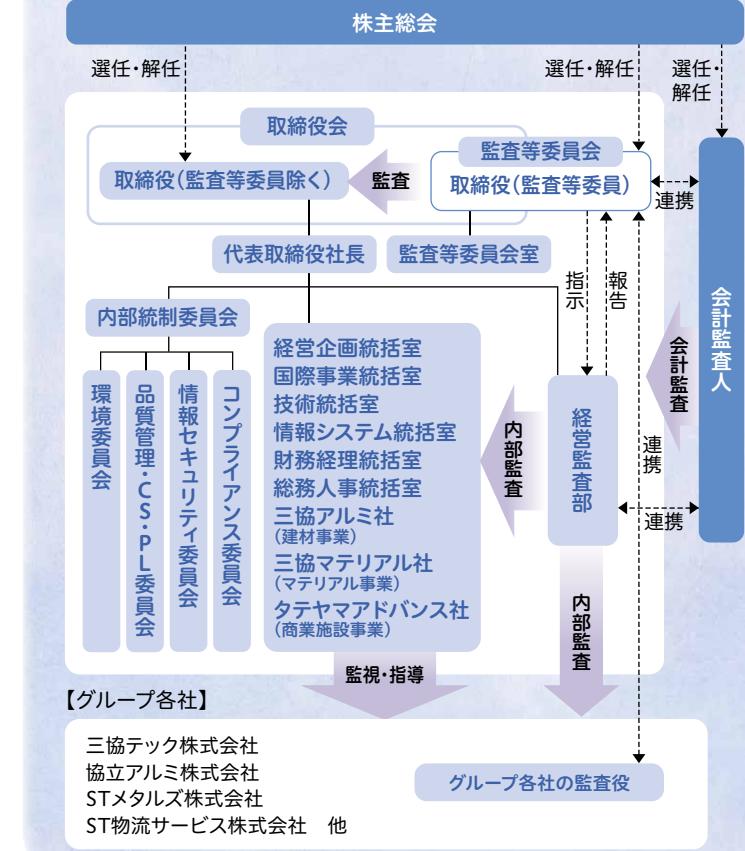
当社は、内部統制委員会にて、リスク管理の方針・方向性・計画・状況把握と是正措置などの審議を行い、当社グループ経営における一切の不確実性を管理しています。

また、当社に関わる不測事態の発生に対しては、グループで連携し、迅速かつ適切に対応策を講じるため、緊急時の組織体制を含めた危機管理規程および同マニュアルを整備し、損失ならびに損害を最小限に抑える体制を整えています。

監査等委員会監査、内部監査の状況

当社は、監査等委員会制度を採用しています。3名の社外取締役を含む5名の監査等委員は、取締役会をはじめ重要な会議・委員会に出席し意見を述べるなど、業務執行の全般にわたって監督機能の充実に努めています。また監査等委員会はグループ各社の監査役と連携を図るとともに、経営監査部がグループ各社の内部監査を行うことで、グループ各社の業務運営に対する監査を定期的に実施しています。また、監査等委員会室を設置し、監査等委員の職務全般を補助しています。

コーポレートガバナンス体制



コンプライアンスの推進

コンプライアンスは、三協立山グループにとって経営の重要な事項の一つであると捉え、推進専任部署を2004年7月に設置しました。当社のコンプライアンス推進担当役員を委員長とする「三協立山コンプライアンス委員会」を設け、コンプライアンス推進基本方針に基づき、活動を進めています。

【コンプライアンス推進 基本方針】

- ① 全役職員が当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守します。
- ② コンプライアンスに最大の価値を置き、利益とコンプライアンスが相反する場合には、コンプライアンスを優先させます。
- ③ 外部から不正・不当な要求がなされても、断固として拒否します。
- ④ グループ内でコンプライアンスに関する問題が生じた場合には、直ちにこれを是正します。

今年度活動報告

各種研修・教育活動の実施

全国の支店・工場を含めたコンプライアンスリーダーに対して、「個人情報保護」をメインテーマとした研修を実施しました。研修を通じて、職場内へ情報を周知してもらうとともに、コンプライアンス推進者としての自覚を再確認してもらいました。

また、新入社員研修、階層別研修、および新任支店長研修を実施し、社会人として求められる行動やコンプライアンスの本質などについて考え、習得する機会を設けています。

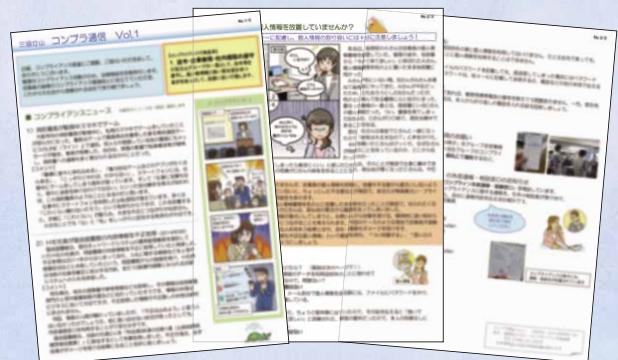


コンプライアンスリーダー研修

コンプライアンス意識の啓発

職場内コンプライアンス活動推進のため、従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行しています。コンプライアンスリーダーが、この情報誌の内容を職場の従業員に周知することで、職場内のコンプライアンス意識向上につなげています。

さらに、今年度は「個人情報保護」をテーマとしたコンプライアンスポスターを制作し、各職場に貼り出すことで従業員の意識啓発を行いました。



従業員向けコンプライアンス情報誌

内部通報制度の理解促進

当グループでは、内部通報制度(通称:コンプライアンス)を設けています。コンプライアンスを正しく理解し活用してもらうため、従業員向けコンプライアンス情報誌や社内報、ポスターなどに通報窓口(社内・社外)などの情報を掲載しています。

また、内部通報制度の理解状況調査を毎年実施し、調査結果は啓発活動に反映させています。



コンプライアンスポスター

情報セキュリティの確保

三協立山グループは、情報セキュリティの確保に関して、お客様の個人情報や取引情報の保護を最優先に取り組んでおり、従業員一人ひとりが情報セキュリティに対する適切な知識と行動を身に付けるよう実践しています。

情報セキュリティマネジメント体制

当社では、情報システム担当役員を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設け、グループ全体の活動状況・課題を把握とともに対応方針を決定しています。また、同委員会での決定事項は、実行・推進部門である「情報セキュリティ主管部門」のもと、各部門に配置された約300名の「情報セキュリティ責任者」および「情報セキュリティ推進者」によって、全従業員に周知徹底を図っております。

※当グループでは、2014年度、重大なセキュリティ事故は、発生しておりません。

情報セキュリティ確保への主な施策

1. 教育・啓発

新入社員や、新たに三協立山グループに加わった従業員を対象に、セキュリティ研修会を開催し、セキュリティ対策の必要性や社内ルールについての教育を行いました。

また、従業員が自分のペースで学習できるように、情報セキュリティに関するeラーニングを提供しています。

2. 情報漏洩対策

社外に持ち出しうるモバイルパソコンには、暗号化ソフトをインストールし、万が一盗難にあっても第三者に保存されているデータを盗み見されないよう対策をとっています。また近年大容量化が進みセキュリティリスクが高まっているUSBメモリについては、原則利用を禁止としています。

3. アクセス権の適切な管理

社内からの情報流出リスクを低減するために、サーバ資源へアクセスする時に入力するユーザーIDや、アプリケーションを利用するために使うIDに関して、定期的な再検証（利用者と権限の確認）を行っています。

4. 物理アクセス対策

ホストコンピュータが設置されているマシン室を「アクセス管理エリア」に指定し、部外者や不審人物などを入室させないように、指紋認証電気錠による出入管理設備や監視カメラを設置しています。また、情報センタービルには、赤外線センサー監視装置を設置することで、執務者不在時のセキュリティを強化しています。

VOICE

セキュリティ対策について

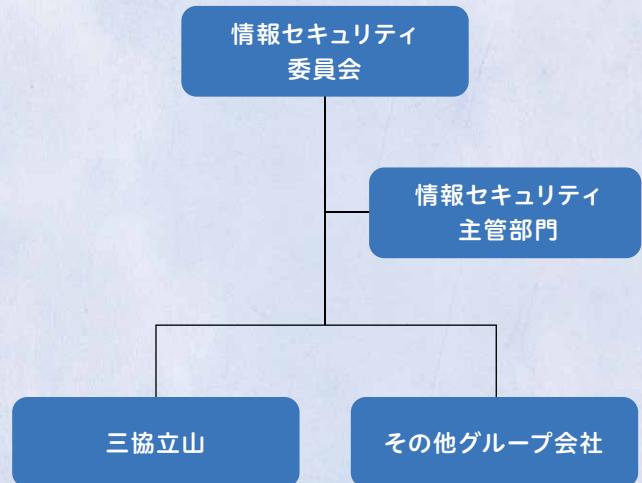
企業を標的としたセキュリティ攻撃は、高度化・巧妙化が年々進んでおり、今後も増え続けると思います。

私たちは、外部からの不正侵入や不正操作の防止を目的に、検知・防御の強化に取り組みました。結果、迅速な検知・確かな防御が可能となり、より強固なセキュリティ環境を実現できたと考えています。

今後は検知情報を活用し、攻撃の抑止・予防レベルの向上に努めています。

情報システム統括室 システム企画部運用課 杉山 裕也

情報セキュリティマネジメント体制(2015年6月1日)



情報セキュリティ研修会



地域社会とともに(1)

三協立山グループは、地域社会の一員として、社会貢献活動やコミュニケーション活動など、地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。

地域社会の一員として

「ごみゼロ活動」の実施

全国の支店・営業所および工場では、地域のイベントや自主的な活動として、事業所周辺の清掃活動にボランティア参加しています。

その中で、毎年5月30日に「ごみゼロ活動」として、全社一斉の清掃活動を実施しています。今回は全国で1,500名を超えるボランティア参加者がありました。

今後も、地域の清掃活動を通じて、社員一人ひとりがごみゼロ社会の実現に向けてごみを出さない、捨てない、または、分別意識を持って資源として有効利用を図る、などの環境保全意識の醸成を図っていきたいと思います。



工場での活動

三協立山グループの工場では、清掃活動のほかにも、社会貢献活動や地域との交流を続けています。

[主な活動]

- 地域の子供たちの安全確保を目的に、通学路をパトロール
- 14歳の挑戦（近隣中学校の生徒の職場体験学習）の受け入れ
- インターンシップ（近隣高等学校などの生徒・学生の職場体験実習）の受け入れ
- 地域の祭りやパレードに参加
- 無事故・無違反コンテストへの参加、街頭キャンペーンの参加
- 献血

地域社会とともに(2)

地域社会の一員として

新幹線開業!ピカピカとやま一斉清掃運動

2014年10月、「新幹線開業!ピカピカとやま一斉清掃運動」のキックオフイベントが高岡テクノドームで開催されました。

2015年春の北陸新幹線開業を控え、よりきれいな富山県をお迎えするため、富山県内の清掃美化活動を推進することを宣言し、石井富山県知事とともに会場周辺のごみ拾いを行いました。

当社からも従業員ボランティアが参加し、さわやかな秋空のもと、清掃活動に励みました。



新高岡駅を望みながら、石井富山県知事と清掃活動

能越道七尾氷見道路「たすきリレー」

2015年2月、能越道七尾氷見道路の開通に向けて、重要拠点をつないだ「たすきリレー」が行われました。

富山県側はクロスランドおやべからたすきをスタートし、当社に高岡市のマスコットキャラクター・利長くんと一緒に来社された、高岡市瑞龍寺の方からたすきを受け取りました。

この後もたすきは引き継がれ、石川県側からスタートしたたすきと県境を終点として、両県知事がたすきを交換するセレモニーが行われました。



高岡市瑞龍寺よりたすきを受け取る

津波防災の日に緊急地震速報訓練を実施

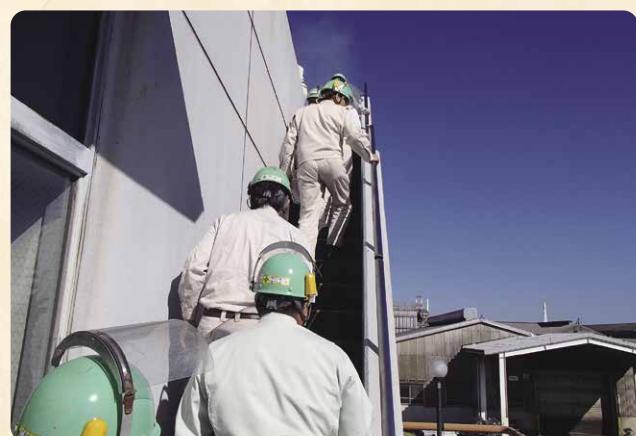
2014年11月、射水市内の3工場(新湊工場・射水工場・奈吳工場)において、緊急地震速報による防災訓練が実施されました。

この訓練は、内閣府(防災担当)および気象庁より津波防災の日に、全国的な訓練の実施要請があり、参加したものです。

各工場では地震による津波を想定し、2階以上への避難を実施しました。

3工場における訓練参加者は434名でした。

各工場ではこの訓練を通じて、連絡体制および避難と初期行動を確認し、参加者全員が訓練の重要性をあらためて確認しました。



地震による津波を想定した避難訓練

「ノーマイカーデー」の実施

当グループは、2002年よりノーマイカーデー宣言事業所として県や市の実施運動に参画し、従業員に理解と参加、協力の呼びかけを継続して行っています。(グループでは毎月第二水曜日をノーマイカーデーとして設定)

2014年度高岡市民ノーマイカーデー実施結果

「高岡市民ノーマイカーデー」 実施日	第25回 2014.10.1	第26回 2015.4.1
削減延べ往復距離数	876km	650km
削減CO ₂ 排出量	202kg-CO ₂	150kg-CO ₂

地域社会とともに(3)

社会貢献活動

広島市に義援金を寄贈

2014年8月、広島市北部では豪雨による土砂災害に襲われました。

被災者救済のため、三協立山グループおよび関連会社従業員からの募金と、拠出金をあわせた1,000万円の義援金を贈呈しました。

2014年9月に広島市役所へ訪問し、目録を手渡しました。



広島市役所にて目録の贈呈

献血の推進で厚生労働大臣表彰 受賞

2014年7月、「平成26年度献血運動推進 富山大会」(富山県、日本赤十字社富山県支部、富山県献血推進協議会主催)において、射水工場が厚生労働大臣表彰を受賞しました。

これは、射水工場が献血の推進に積極的に協力し、血液事業の発展に寄与した功績が認められたものです。

なお、当グループは、毎年富山県赤十字血液センターの献血活動に協力しています。(年3回4、8、12月に実施)



射水工場が厚生労働大臣表彰を受賞

2014年度献血実績

	夏の献血 2014年8月	年末の献血 2014年12月	春の献血 2015年4月
受付者数	253名	263名	263名
献血者数	229名	249名	242名
200ml献血者数	21名	22名	0名
400ml献血者数	208名	227名	242名

野球B Cリーグ公式戦「富山GRNサンダーバーズ」

東日本大震災遭児育英支援冠試合を開催

2015年5月、当グループがオフィシャルスポンサーとして応援している「富山GRNサンダーバーズ」のBCリーグ公式戦が、「東日本大震災遭児育英支援冠試合」として開催されました。

試合が行われた「高岡西部総合公園野球場」は5月に新しくオープンしたばかりで、今試合が最初のナイター試合となり、3,040人が来場し声援を送りました。

これに合わせ当グループより入場者×100円を「あしなが東日本大震災遭児支援募金」として、あしなが育英会へ寄贈しました。



声援を送る観客席



当社山下社長よりMVP賞授与

従業員とともに

三協立山は、お客様への喜びと満足を提供するために、新しい価値を創造できる人材の育成と、安全で健全な働きやすい職場づくりを目指しています。

- ワーク・ライフ・バランスの推進(→P.5 特集2)
- 健康活動、メンタルヘルスケア(→P.6 特集2)
- ダイバーシティの推進(→P.8特集3)

新入社員の採用

企業の安定的な成長・発展に向け、新入社員の採用を行っています。

本年は『広い視野を持ち、好奇心とチャレンジ精神、行動力を備え、当社のさらなる成長に貢献できる人材』の採用を行ってきました。



入社式風景

従業員教育

新入社員の段階的な育成、早期戦略化を目的に、入社から3年間にわたりフォローアップ研修を行っています。

また、昇格時の階層別教育、次代の経営幹部やマネージャーを創出する早期マネジメント教育、さらに海外で能動的に行動できる人材を育成する海外実務研修など、当社の成長・発展を担う人材の育成にも力を入れています。

自己啓発支援

通信教育講座の受講奨励や社内e-ラーニングなどの自学手段の提供、公的免許・資格取得に対する報奨金支給など、従業員の自己啓発やキャリア形成をサポートしています。

労働安全衛生について

基本理念

当グループでは、安全衛生の確保は、企業の社会的責任であることの認識を高め、働く人一人ひとり、けがや病気に「させない」「起こさせない」という強い信念と愛情のもと、職場の危険源低減活動を進めています。また、働く源である元気なからだとこころの健康づくりにも、積極的に取り組んでいます。

安全活動

職場の危険源低減活動として「リスクアセスメント」、「ヒヤリハット運動」や「労使安全パトロール」などを展開し、危険要因の排除に取り組んでいます。

また、安全の基本となる「5S活動」に取り組むとともに、安全に強い人づくり推進活動として「危険予知訓練」、「各種安全衛生教育」などを実施し、安全意識の向上と人材育成を図っています。不安全行動による労働災害が依然として多いため、危険を危険として、気づく感受性を鋭くする危険予知訓練と作業行動の要所で「指差し呼称」による安全確認の徹底運動を展開し、労働災害防止に努めています。

遺児育英年金制度

遺児育英年金制度は、従業員が在職中に死亡(または、高度の障がいとなり)退職した場合に、遺児(子供)に対して奨学資金を援助する制度です。この制度は、従業員が安心して働くため、労働組合と共に共同で行っている福利厚生施策で、子供が18歳(高校卒業)になるまで援助するものです。

従業員満足度調査

従業員のモチベーションを、会社の生産性や業績の向上につなげることを目的に、毎年「従業員満足度調査」を実施しています。なお、調査結果は社内のポータルサイトに公開しています。

労働災害度数率



安全衛生意識の高揚を図る目的に、毎年グループ全社から標語を募集し、優秀作品を表彰しています。今年は3,923件の応募がありました

『元気な挨拶 明るい笑顔 みんなで作ろう活き活き職場』

2014年度安全衛生意識標語入選作品(健康管理部門)

お客様とともに(1)

三協立山グループは、お客様への喜びと満足の提供こそが、豊かな暮らしの実現に貢献できるものと認識し、従業員一人ひとりが「CS*ポリシー」の実践を心がけ、日々の業務に取り組んでいます。

*CS(Customer Satisfaction) = 顧客満足

お客様にご満足いただくために

当社は、信用と信頼を大切にしています。信用と信頼は、日頃の企業活動において消費者様やお得意様を含めた全てのお客様の期待に応えることで、少しずつ醸成していくものと認識しています。そして、企業活動の一つひとつがお客様満足につながることを念頭において、従業員一人ひとりが日々の業務に取り組んでいます。

顧客満足に関する活動方針は、「顧客満足向上委員会(CS委員会)」を通じて、品質向上に関する活動方針は「全社品質管理委員会」を通じて決定されて取り組んでいます。当社のカンパニー部門の三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社と、グループ内のST物流サービスとの間では定例の連絡会を設け、品質の向上に関する活動の連携を図っています。また、消費者様に安心してご使用いただけるよう、製品の安全に関わるPL(製造物責任)対応として、「PL委員会」を設置し、前出の2つの委員会と連携をとりながら、信用と信頼の維持向上に努めています。

※体制図は、P.12「コーポレートガバナンス体制」参照

CSポリシー

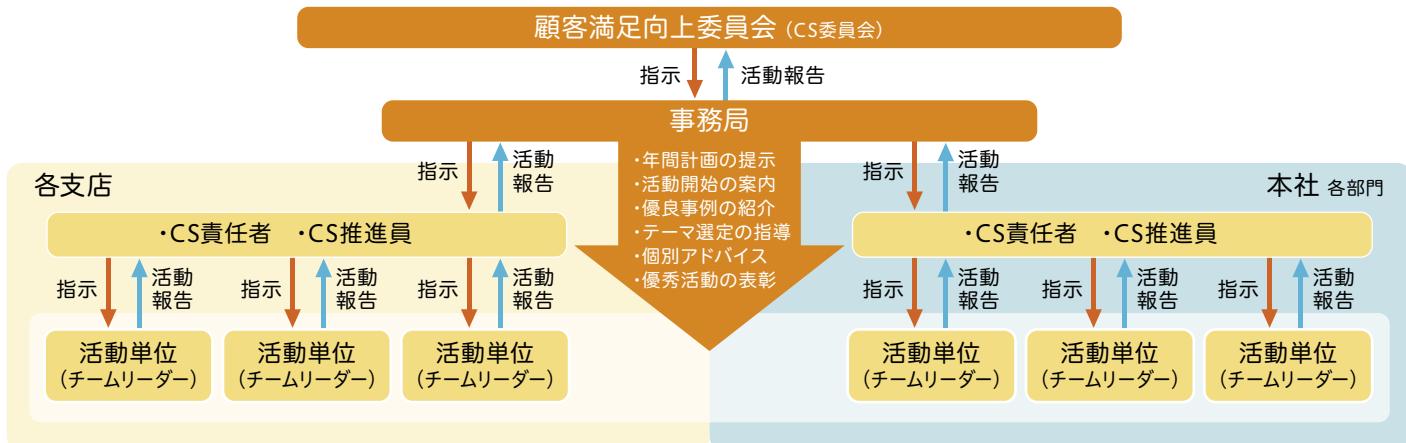
CSポリシーは、経営理念、行動指針とともに携帯用カードとして当グループ内に勤務する役員・社員・派遣社員など全員に配布され、個々人の指針としています。

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え方行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

私たちには常にこの指針に従い、
日常の企業活動の中でお客様満足
の向上に努めていきます。

CS活動状況

当社では、「CSポリシー」の実践を目的に「CS単位活動」を行っています。この活動は、日々の業務をお客様の立場・視点で考え方行動し、CSを実践していく活動です。2002年より開始し、2014年度は289単位(チーム)が参加しました。この取り組みを通じて、日頃の業務の中に「CSポリシー」をより一層根付かせるとともに、グループ内へのベストプラクティス(優秀事例)の水平展開を図ることで、「お客様満足」を目指します。



お客様とともに(2)

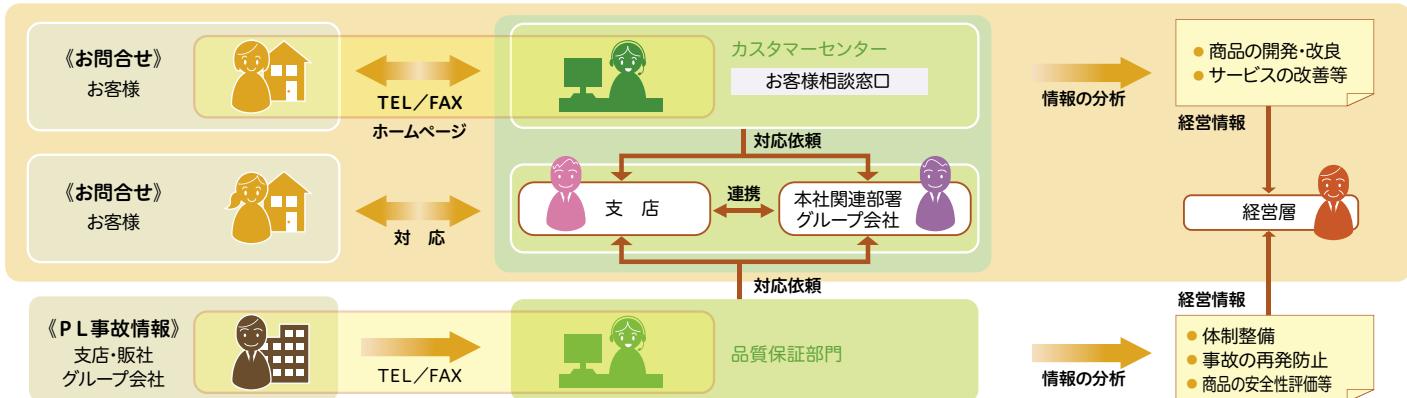
お客様の声(VOC)を生かすために

三協立山は、消費者様やお得意様を含めたお客様からの相談窓口としてカスタマーセンターを設置し、電話、FAX、ホームページなどによりお問合せをいただけるようにしています。相談窓口では、会社を代表する窓口として信用と信頼を担っているという自覚を持ち、適切な応対を心がけ、丁寧で迅速な対応に努めています。

また、「お客様満足第一」で一つひとつのお問合せを真摯に受け止め、日々お客様から寄せられる「お客様の声※(VOC)」を系統立てて整理・分類し、さまざまな角度から分析を行い、課題を抽出しています。これらの課題を経営情報として経営トップや関係部署へフィードバックを行い、商品の開発・改良およびサービスの改善などに役立てています。「消費者満足」「顧客満足」のさらなる向上を目指し、ホームページやカタログなどの情報提供ツールをよりわかりやすく、ニーズに応えられる情報となるよう改善に努め、顧客接点の強化に取り組んでいます。

※VOC:Voice of Customerの略

●お客様情報の処理フロー



安心してご使用していただくために

当社は、製品の安全性確保とお客様の安全確保に関する法令や品質に関する基準を遵守しています。

開発段階では、リスクレベルの「見える化」による安全性の評価(R-Map*を用いたリスク評価)を行い、使う人の立場に立って、より使いやすい、安全な商品づくりに取り組んでいます。また、取扱説明書や注意ラベルに限らず、カタログの記載内容については、景品表示法、消費者基本法などの各種法規に準拠しているかどうか、さらに、所属工業会のガイドラインに沿っているかどうかについて事前にチェックして、お客様に必要な情報を明確でわかりやすく表示するよう取り組んでいます。

当社製品に関わる事故が発生した場合、すみやかに必要な関連情報を収集して、お客様の視点に立った迅速で適切な事故処理を行うとともに、重大な製品事故については、消費生活用製品安全法などの法令に基づいて、所轄官庁へ報告を行います。

また、事故の原因究明と再発防止を徹底し、製品の安全確保に努めています。

※R-Map:危害の程度と発生頻度から、リスクの大きさを評価する手法の一つ。

コラム

三協アルミ首都圏ショウルーム

2015年2月、首都圏ショウルームがオープンしました。「窓とドアから見つけよう」「暮らし×幸せ×遊びパーク」としてオープンした首都圏ショウルームは、サッシ・玄関・室内建材などの住宅建材商品を中心とした品揃えで、お客様の家づくりのお手伝いをさせていただきます。

住 所：東京都新宿区西新宿3-6-11(西新宿KSビル9F)

営業時間：10:00～17:00

定休日：水曜日(祝日を除く)、年末年始、ゴールデンウィーク、夏期商品入替等により臨時休業する場合があります。

<http://alumi.st-grp.co.jp/shr/tokyo/index.html>



株主とともに

三協立山は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

IR※活動

IR活動は、広報・IR部が担当しており、株主、投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様に、当グループの企業活動に対する理解を促進し、適正に評価していただくために、企業情報を適時・適切に開示しています。

当社ホームページには、決算短信、決算補足説明資料、有価証券報告書(四半期報告書)などの決算開示資料に加え、半期ごとに株主通信などを掲載し、投資家の皆様がいつでも容易に閲覧できるようにしています。

機関投資家・アナリストに対しては、半期ごとにスマートミーティングを開催、四半期ごとに個別ミーティングを開催しており、2014年度は国内で121回実施しました。また、定期的に証券会社主催の会社説明会に参画し、個人投資家の皆様への当社の理解促進に努めています。

投資家およびアナリストの皆様からいただいたご意見や助言などは、適宜、経営幹部にフィードバックし、今後の経営に活かすよう努めています。

※IR(Investor Relations、インベスター・リレーションズ)：
企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般



株主通信

情報開示の考え方

当社は、金融商品取引法などの諸法令ならびに東京証券取引所の定める有価証券上場規程(以下「上場規程」という)に準拠した情報開示に努めるほか、当社をより理解していただくために有効と思われる情報についても、迅速に開示します。

なお、上場規程に該当する情報は、同規程に従い、東京証券取引所の提供するTDnet(適時開示情報伝達システム)を通じて開示します。上場規程などに該当しない情報についても、投資判断に影響を及ぼすと思われる場合は、その重要度および緊急性に応じて、適宜、適切な方法ですみやかに開示します。

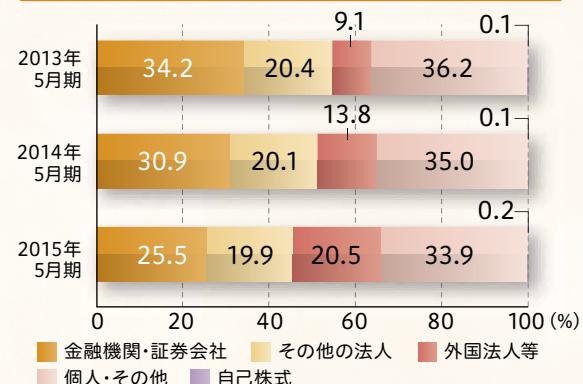
株主構成 (2015年5月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	31,554,629株
株主数	22,492名

所有者別株式分布状況 (2015年5月期末)

区分	株式数	比率
政府・地方公共団体	0	0.0
金融機関	7,517,768	23.8
証券会社	538,439	1.7
その他の法人	6,265,034	19.9
外国法人等	6,482,971	20.5
個人・その他	10,702,735	33.9
自己株式	47,682	0.2
計	31,554,629	100.0

株主構成の推移



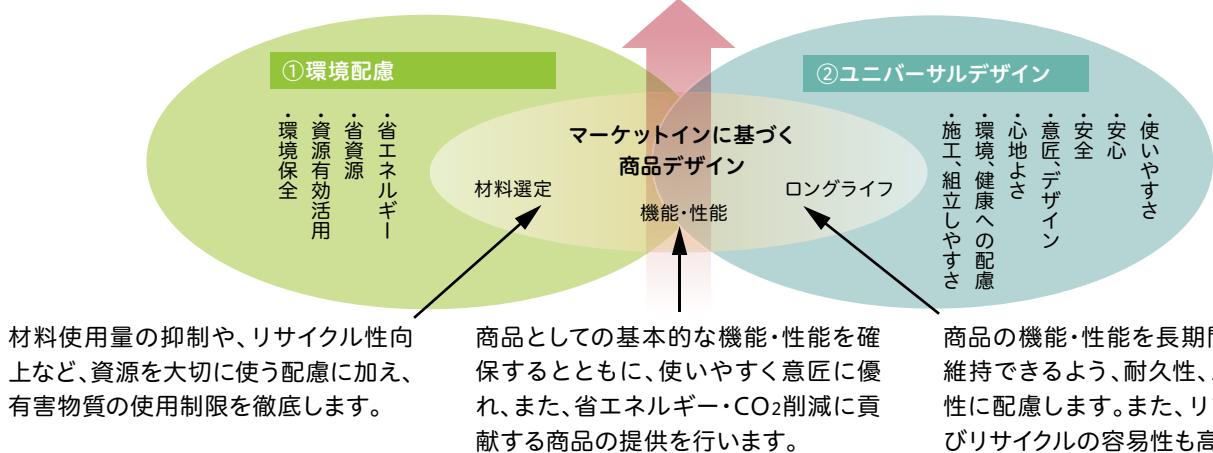
商品開発の基本姿勢

三協立山は、商品・サービスの購買者のニーズを優先し、マーケットインをベースとした全体最適システムから生活視点で商品開発を行い、お客様の期待にお応えします。

商品開発理念

安全・安心で快適な空間と生活に寄与するために、全ての新規開発商品において、①環境配慮と②ユニバーサルデザイン(以下UD)を基本に、「材料選定」、「機能・性能」、「ロングライフ」の3つの要素を使う人の立場に配慮して盛り込み、お客様へご提案しています。

安全・安心で快適な空間と生活



環境配慮の商品づくりについて

環境配慮設計指針による商品開発

当社では、「環境配慮設計指針」を基本として商品開発を行っています。この中では、「省エネルギー」「省資源」「資源有効活用」「環境保全」の4つのコンセプトに基づき、材料選定、生産、流通、施工、使用から解体・廃棄までのライフサイクルでの環境負荷低減に努めています。

環境配慮商品

商品開発時には、環境配慮設計指針に基づいた「環境配慮設計チェックリスト」を用いて、全ての開発商品について、環境への影響を評価しています。

従来同等商品より環境への負荷が少なくなるよう目標を定め、総合点数が目標を上回った商品を『環境配慮商品』と定めています。

その結果、三協アルミの2014年度の環境配慮商品売上比率は、81%になりました。

4つのコンセプト

省エネルギー

- ①断熱
- ②遮熱
- ③省電力
- ④自然エネルギー利用

省資源

- ①リデュース
- ②長寿命
- ③メンテナンス性

資源有効活用

- ①リユース
- ②リサイクル

環境保全

- ①有害物質抑制
- ②温室効果ガス

また、商品カタログには、環境配慮商品であることを示すマークを付けています。

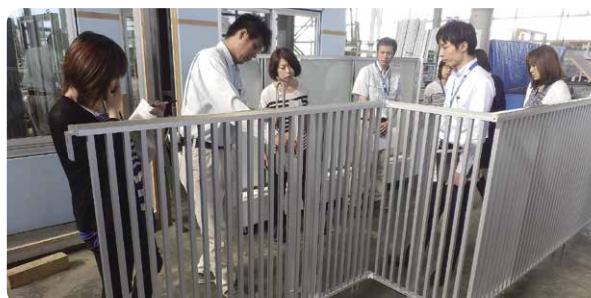
環境配慮商品マーク



ユニバーサルデザインの取り組み

UDユーザー評価会

UDユーザー評価会とは、開発商品の試作確認時にユーザー視点での商品評価を行うものです。ユーザー側の声を商品開発へフィードバックすることで、書類審査や開発関係者による検討だけでは気が付かない問題点を掘り起こします。



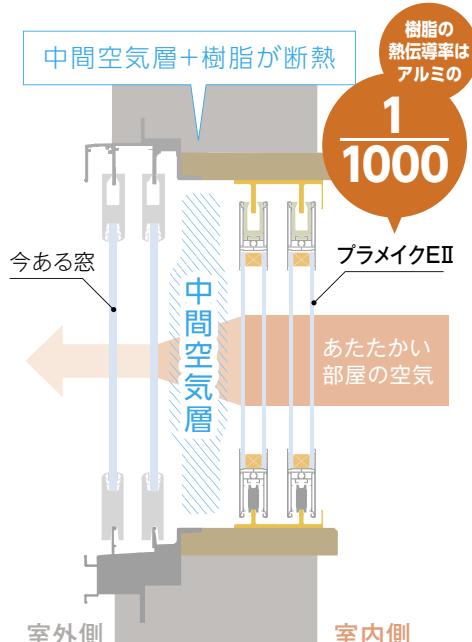
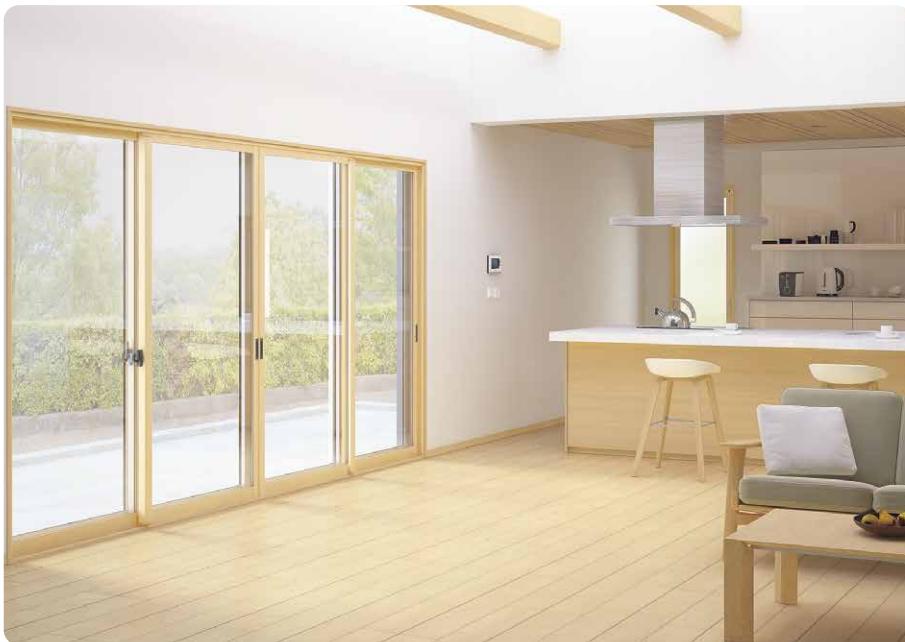
UDユーザー評価会

環境・UDに配慮した商品開発(1)

後付樹脂内窓「プラメイクEⅡ」

今ある窓につけるだけで、快適さアップ！冬は暖かく、夏は涼しく

“今ある窓につけるだけ”で簡単に窓の断熱リフォームができる後付樹脂内窓をリファイン。「プラメイクEⅡ」は、従来品に比べ、窓の開け閉めが軽くなったり、木目調カラーの質感が向上したことなど、さらに性能・意匠がアップしました。



特長

①断熱・遮熱効果

既設外窓との間の中間空気層と、熱が伝わりにくい樹脂部材が、熱の出入りを大幅に抑え、高い断熱効果を発揮。冷暖房コストの節約やCO₂排出量の削減にも貢献

②開閉力の軽減

気密性能は保ったまま、より少ない力で窓の開閉が可能に

③換気ストッパー付障子の設定

開口幅を110mmに制限できるストッパー付障子を設定。お子様の安全に配慮しながら通風・換気が可能に



換気ストッパー付障子

商品の詳細はこちらから → <http://alumi.st-grp.co.jp/products/interior/plamake-e/index.html>

VOICE

この商品はリフォーム用の樹脂内窓で、今ある窓につけることで、断熱性だけでなく防音性や防犯性が大幅に向上します。

今回、リファインした「プラメイクEⅡ」の特長の一つが、使いやすさへの配慮です。重い複層ガラスを組み込んだ場合でも、軽い開閉力を実現しました。また、換気ストッパー付障子では、小さなお子様がいる家庭でも安心して窓を開けて換気することができます。

断熱性と使いやすさが向上した新しい「プラメイクEⅡ」は、生活空間に快適さと安らぎを創造します。

三協アルミ社 商品開発部 商品開発三課
笠原 康貴



環境・UDに配慮した商品開発(2)

人工木デッキ「お木に入りⅡ」

天然木の質感を再現し、芯材には再生資源を有効活用

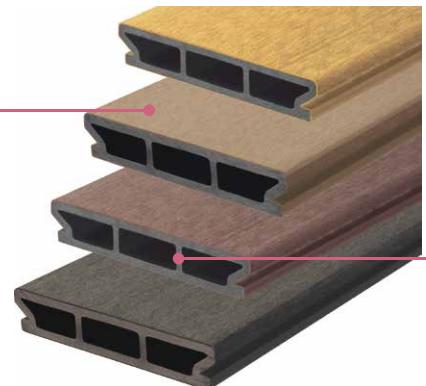
デッキの芯材は、「フライアッシュ（石炭火力発電所から発生する石炭灰）」と「容器包装リサイクル樹脂」といった再生資源を組み合わせて成形されています。温もりある木質感を再現しつつ、耐候性・耐久性に優れ、メンテナンス容易な人工木デッキです。



『お木に入りⅡ』の表面材は…



ポリエチレン樹脂に木粉を配合。屋外使用に適した高耐候性被覆処理を施しています。



『お木に入りⅡ』の芯材は…



容器包装リサイクル樹脂とは、容器包装リサイクル法に基づき、各自治体から排出されるリサイクル樹脂です。

特長

- ①芯材は、「フライアッシュ」と、レジ袋などの「容器包装リサイクル樹脂」の組み合わせで、耐久性を確保
表面材は、「木粉」と「ポリエチレン樹脂」の組み合わせで、天然木の質感を再現
- ②日頃のお手入れも手間がかからず、メンテナンスが容易
- ③床表面に釘を出さない、デッキ材固定金具を用いた施工で安全性に配慮
デッキ材目地は、目地のすき間が小さい設計で、足の指を挟みにくく、お子様にも安心

VOICE

「お木に入りⅡ」の芯材は、本来廃棄物となるフライアッシュと容器包装リサイクル樹脂を原料とした人工木です。従来の床板よりも ①吸水率が小さい ②伸び縮みしにくい ③衝撃に強く変形しにくいといった特長があります。表面材には木粉入りの人工木を使用しているので、質感やお手入れのしやすさに配慮しながら、デッキ本体の耐久性をアップしました。

デッキは、家の中から庭までが一つにつながり、自然を感じるアウトドアリビングとして活躍します。さらに、フェンスやサンルーム、ガーデンルームなどを組み合わせれば、暮らしに広がりが生まれます。

そして、足元のデッキには、地球環境にやさしい材料が使われている…「お木に入りⅡ」には、暮らしの豊かさと環境へのやさしさが融合しています。

三協アルミ社 商品開発部 商品開発四課 武関 夢乃

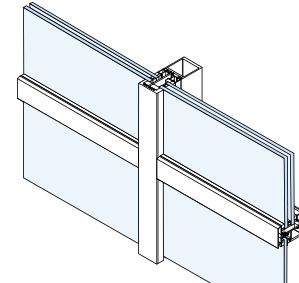
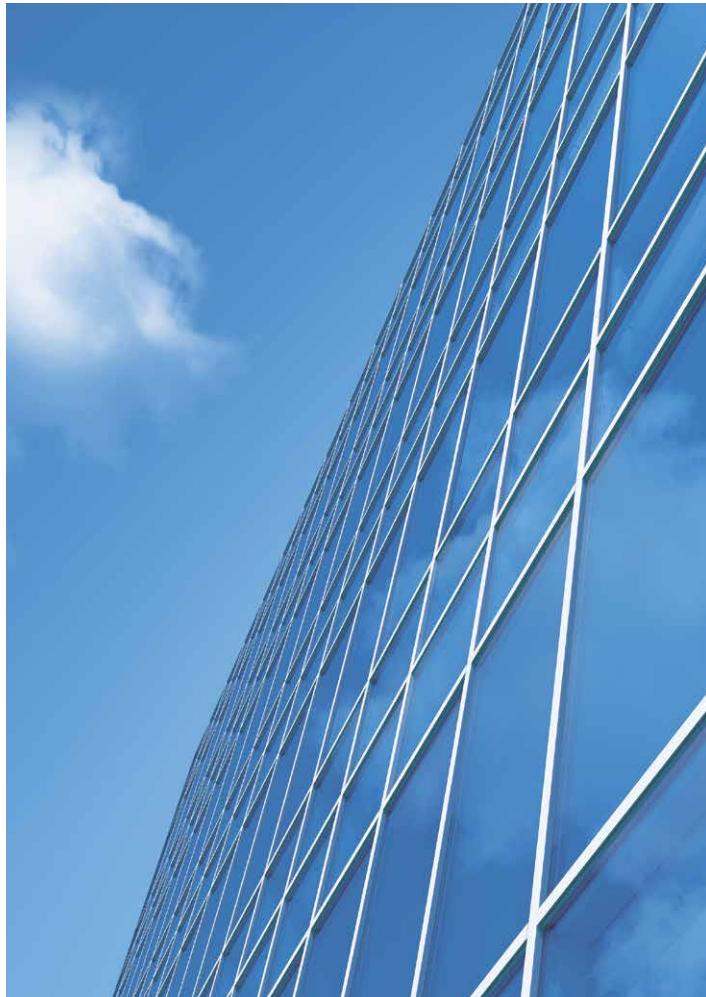


環境・UDに配慮した商品開発(3)

カーテンウォール「NL-R」

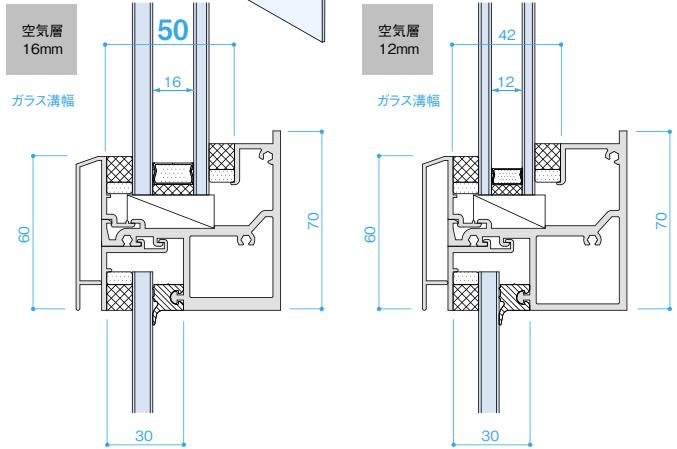
自然に強く、そして美しいカーテンウォール

新しいスタンダードカーテンウォール「NL-R」は、スッキリした意匠で、空気層16mmの複層ガラスの対応が可能となりました。単板ガラスがいまだに主流のビル建材にも、高断熱化を推進していきます。



カーテンウォールとは

建物の外壁に数多く採用されている、建物の荷重を直接負担しない建築構造上取り外し可能な外壁。



特長

- ①空気層16mmの複層ガラスも可能で、高断熱性の要求に対応
- ②近年多発している想定外の豪雨や雨台風などの異常気象にも対応できるよう、水密性能を従来品の500Paから大幅にアップさせ、国内最高水準の1,500Paを実現

商品の詳細はこちらから

http://buildingsash.net/product/curtain/21/211/nl_r.html

VOICE

「NL-R」は、ベーシックなビル用カーテンウォールです。オフィスや共用スペースでは、住居に比べてガラスの断熱化が遅っていましたが、この「NL-R」では、空気層の大きい複層ガラスを組み込むことができ、断熱性をアップさせることができます。高い水密性と断熱性によって、快適な室内空間づくりをサポートします。

さらに、「スウィンドウ」や「換気スリット」などの自然換気システムとの組み合わせも想定しており、室内に自然の風を取り入れることにより、省エネと快適性が大きく向上します。

商品の開発にあたっては、性能アップのために起こりがちな、部材重量や部品点数の増加を極力抑え、省資源化とコスト面に配慮した設計を行っています。

スリムで高い水密性と断熱性を持つ、スタンダードカーテンウォール「NL-R」は、『安心』『快適』といった、時代の要請に応えた商品として注目されています。



三協アルミ社 商品開発部 商品開発一課 綱谷 志郎

環境・UDに配慮した商品開発(4)

公用歩行車

誰もが、街中で歩きたくなるような、優れた機能とデザイン

「公用歩行車」は、富山大学が科学技術振興機構(JST)の助成を得て行う研究プロジェクト「歩行圏コミュニティ研究会」に協力し、開発したものです。元気な高齢者だけでなく、足腰が弱くなった高齢者も積極的に街に出で、いきいきと交流を楽しむことのできる生活圏の実現に向け、富山市と連携して取り組みを進めています。



関連記事



社会から評価を受けた商品
(2014年グッドデザイン賞受賞)

VOICE

『環境未来都市』である富山市と富山大学が連携し、『歩いて暮らせる快適な街づくり(歩行圏コミュニティ)』のツールとして歩行車を研究・開発しています。その取り組みの中で、当社は公共の場所に設置して誰もが利用できることをコンセプトとした「公用歩行車」の開発に協力することになりました。

これまで富山大学が開発してきた歩行車は、段差越えや路面電車のレール横断時に転倒の可能性があり、折りたたみ機構があることで車体のガタツキを感じやすく、走行安全性に不安がありました。

そこで、問題点改善を含め、当社に求められた「公用歩行車」の特長は主に以下の4点でした。

- ①ユーザーの利便性を重視：歩行しやすい姿勢をサポート、座りやすい大型座面、大容量の収納バッグ
- ②高い走行安全性：製品安全協会によるSGマーク取得(CPSA0120)、折りたたみ機構の排除、大径車輪
- ③高い収納性：ショッピングカートのようなスタッキング機能(保管場所の省スペース化へ配慮)
- ④デザイン性：男女問わず使いたくなるスタイリングとカラー

当社ではこれまで手がけたことのない製品であることに加え、デザイン性・スタッキング機能・走行安定性を兼ね備えた構造の実現、部品の選定、SGマーク基準を満足する強度設計など、製品づくりは苦労の連続でした。しかし、富山市内で行われた社会実験にて、実際に「公用歩行車」を利用された方の反応はよく、安定性が高く、しっかりしたつくりで使いやすいと評判でした。

足腰の弱い高齢者でも、家から外に出たい、元気に歩きたいと思う、そのような街づくりの一つのツールとして、この「公用歩行車」が役に立てたらいいと思います。

三協マテリアル社 製品技術部 製品技術課 川崎 弘士



コラム

航空、宇宙および防衛分野の品質マネジメントシステム 高岡工場 JIS Q 9100認証取得

三協マテリアル社の高岡工場は、平成26年6月27日付でJIS Q 9100の認証を取得しました。

当社の強みである大型押出形材に精密加工を加え、航空宇宙および防衛産業で必要とされる品質を追求するとともに、今後もより一層お客様のニーズに合った加工技術の向上に取り組んでいきます。

○適用規格 JIS Q 9100 : 2009 ○登録活動範囲 航空宇宙産業向けのアルミニウム合金押出形材の機械加工

環境・UDに配慮した商品開発(5)

アルミスタンドサイン“ポスタンド”「ADO-100Eシリーズ」

エッジ式LED光源で、屋外設置が可能な薄型スタンドサイン

光源に新設計のエッジ式LEDを採用した、屋外で使用できる薄型の内照式スタンドサインです。表示面は定型ポスターサイズに対応し、コルトンフィルムや紙製ポスターなど多彩なメディアがご使用いただけます。



ADO-100E-LED



ADO-110E-LED



ADO-120E-LED



テーパーカット形状



特長

- ①フレームに、テーパーカット形状のアルミ形材を採用した、スタイルリッシュなフォルム
- ②LEDモジュールを本体フレーム内部の両側に配列した「エッジ式LED光源」を採用。表示面の均一な配光と明るさを両立

商品の詳細はこちらから → <http://advance.st-grp.co.jp/news/news150119.html>

VOICE

今では、LED照明が当たり前になったサイン・看板ですが、そのLEDも性能向上し続けています。サインとしての見やすさや省エネ・省電力といった面だけでなく、使いやすさやサイン本体のデザイン性向上など、LEDの進化は新たな価値を持つ商品を創り出しています。

この商品では、新設計のエッジ式LED光源によって、従来のバックライト式(ポスターなどの裏面から直接光を当てる方式)に比べ、大幅な軽量化を実現しました。これにより、屋外での移動が楽になり、使いやすい商品となりました。

また、屋外で人が触ったりぶつかったりすることが考えられる商品のため、安全面への気配りも徹底しています。たとえば、テーパーカット形状のフレームは、スタイルリッシュなフォルムであるとともに、人がぶつかった時のケガ防止のためのデザインとなっています。

薄くてスタイルリッシュなスタンドサインは、お店や施設を格好よく印象付けます。



タテヤマアドバンス社 商品企画部 商品企画課 山崎 義広

社会から評価を受けた商品

2014年度グッドデザイン賞

「スマージュ」・「トリプルスマージュ」/
スライディングゲート「ライアーレ」/
歩行補助車



高断熱樹脂窓「スマージュ」・「トリプルスマージュ」

スマージュは、業界トップクラスの断熱性能を実現した高断熱樹脂窓です。今回の受賞では、シャープでスッキリとした見た目のバランスを実現するとともに、断熱性とフレーム自体の構造強度も上がっており、機能性と心地良さを追求した点が評価されました。



スマージュ・トリプルスマージュ

スライディングゲート「ライアーレ」

ライアーレは、伸縮機構により左右両方から自由に扉を開閉できる「ダブルオーブン」を可能とした業界初のスライディングゲートです。今回の受賞では、動きが非常にスムーズで堅牢性がありデザインがすっきりとしている点や、鍵まわりの細かい配慮、リモコンで開閉操作が可能な電動タイプの設定による使い勝手の良さなどが評価されました。



ライアーレ

歩行補助車

歩行補助車は、富山大学が科学技術振興機構(JST)の助成を得て行う研究プロジェクト「歩行圏コミュニティ研究会」に協力し、開発したもので、高齢者も積極的に街に出て楽しむことのできる生活圏の実現に向け、富山市と連携して取り組みを進めています。今回の受賞では、3本のアルミフレームによるシンプルなつくりで、安定性も高くすっきりした印象となっていることに加え、今後はこの車両の周辺も含めたシステムのデザインとしての完成度に期待できるとして評価されました。



関連記事



環境・UDに
配慮した商品開発
「公用歩行車」

第8回キッズデザイン賞

「UB アーチハンドル」/
「スマージュ」・「トリプルスマージュ」



子ども視点の安心安全デザイン一般部門

玄関ドア電気錠「UB アーチハンドル」

「UB アーチハンドル」は、指一本で簡単にドアの施解錠ができるタッチ式電気錠を一体化した玄関ドア用ハンドルです。

電気錠の操作ボタン、シリンダー、玄関ドアハンドルを一体化しすっきりした仕上がりになり、子どもにも操作しやすいボタン位置を設定し、ユニバーサルデザインのドアとしてニーズがあるものと思われる、と評価されました。

高断熱樹脂窓「スマージュ」・「トリプルスマージュ」引違い窓

住宅の高断熱化が進み、窓ガラスが厚く重くなっている傾向にある中、子どもの力でも開閉できるよう構造に工夫をこらしています。

また、レール部やサッシ戸の重なる召し合わせ部などにもけがをしないアイデアが盛り込まれており、安全意識の高さを感じさせる製品に仕上がっている、と評価されました。



UB アーチハンドル

環境基本理念

三協立山グループは、経営理念・行動指針に基づき、環境基本理念、環境方針などを展開し、環境問題については最重要課題として位置付け取り組んでいます。

環境
スローガン

創ろう美しい地球を

環境
基本理念

三協立山グループは、地球環境問題を最重要課題として認識し、全ての事業活動を通じ地域や地球の環境保全に取り組み、人と自然にやさしい豊かな社会づくりに貢献いたします。

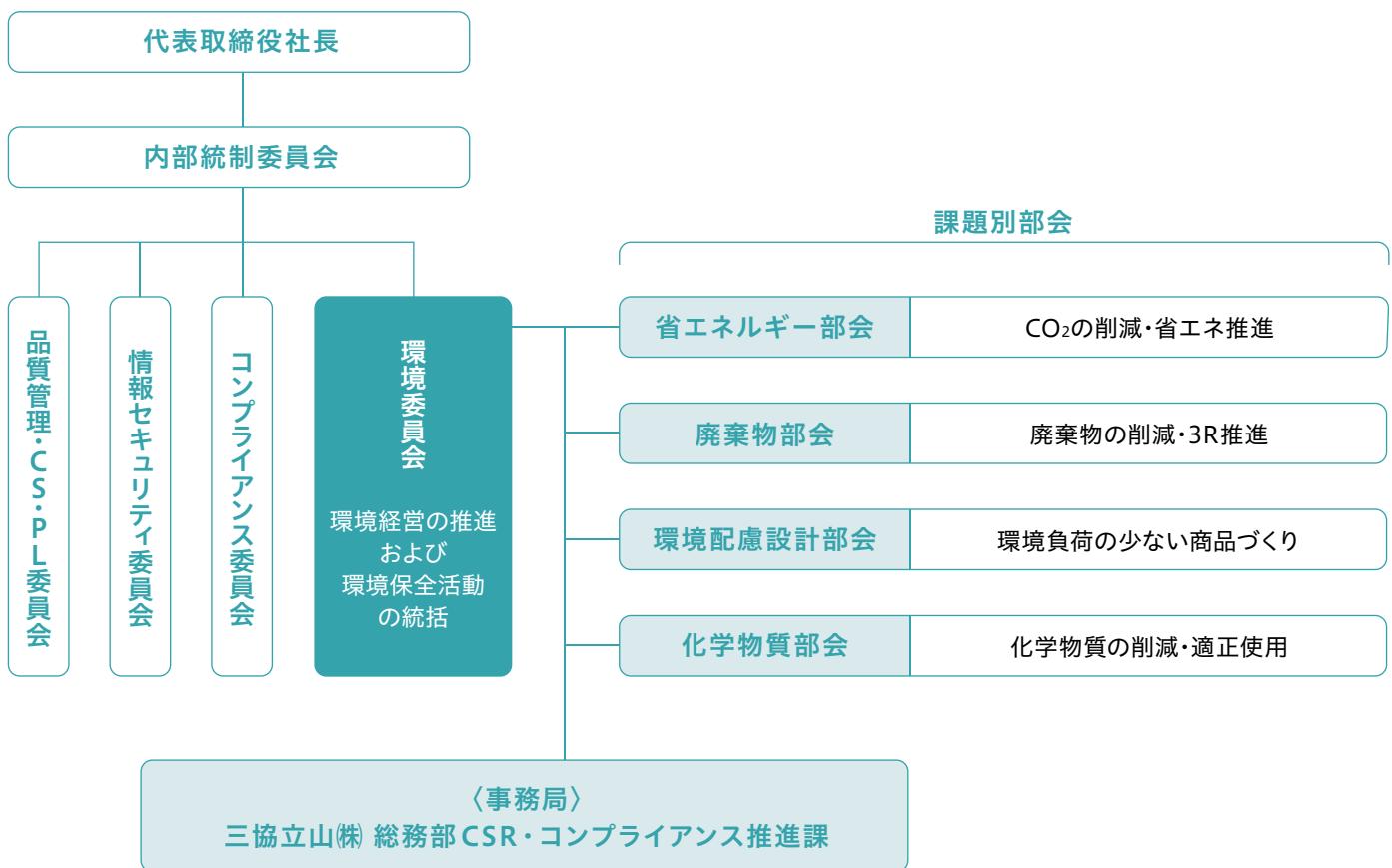
環境方針

- ① 事業活動における環境負荷低減
- ② 環境配慮商品の充実・推進
- ③ 環境経営および環境リスクへの対応
- ④ 環境コミュニケーションの促進

環境推進体制

三協立山グループの環境経営を推進し、環境保全活動を統括する組織として、「環境委員会」を設置しています。当委員会は、内部統制委員会の専門委員会の一つとして位置付けており、環境経営に関する方針・方向性の策定や環境保全に関する重要事項の審議等を行っています。

また、特に重要な環境政策については、課題別部会を設けて具体的に展開しています。



主要指標一覧

[2014年度] 主要な環境パフォーマンス指標などの推移

項目	報告対象期間	2012年度	2013年度	2014年度	集計範囲	本報告の掲載ページ
総エネルギー投入量 (千GJ)	4,481	4,576	4,393		三協立山	P35
主要原料投入量 (千トン)	165	167	158		三協立山	P30
水資源投入量 (千トン)	10,650	10,504	10,399		三協立山	P38
温室効果ガス排出量 (千トン-CO ₂)	222	221	212		三協立山	P35
産業廃棄物排出量 (千トン)	30.3	30.7	27.3		三協立山	P37
産業廃棄物埋立量 (千トン)	1.0	1.2	1.1		三協立山	P37
PRTR対象物質取扱量 (トン)	718	532	541		三協立山、関連会社	P39
化学物質トルエンの排出量 (トン)	51	54	53		三協立山、関連会社	P39
化学物質キシレンの排出量 (トン)	67	69	67		三協立山、関連会社	P39
総資産 (百万円)	216,545	234,243	270,557		三協立山	P49
売上高 (百万円)	271,757	295,236	292,391		三協立山	P49

※温室効果ガス排出量:各電力会社の2010年度実排出係数にて算出

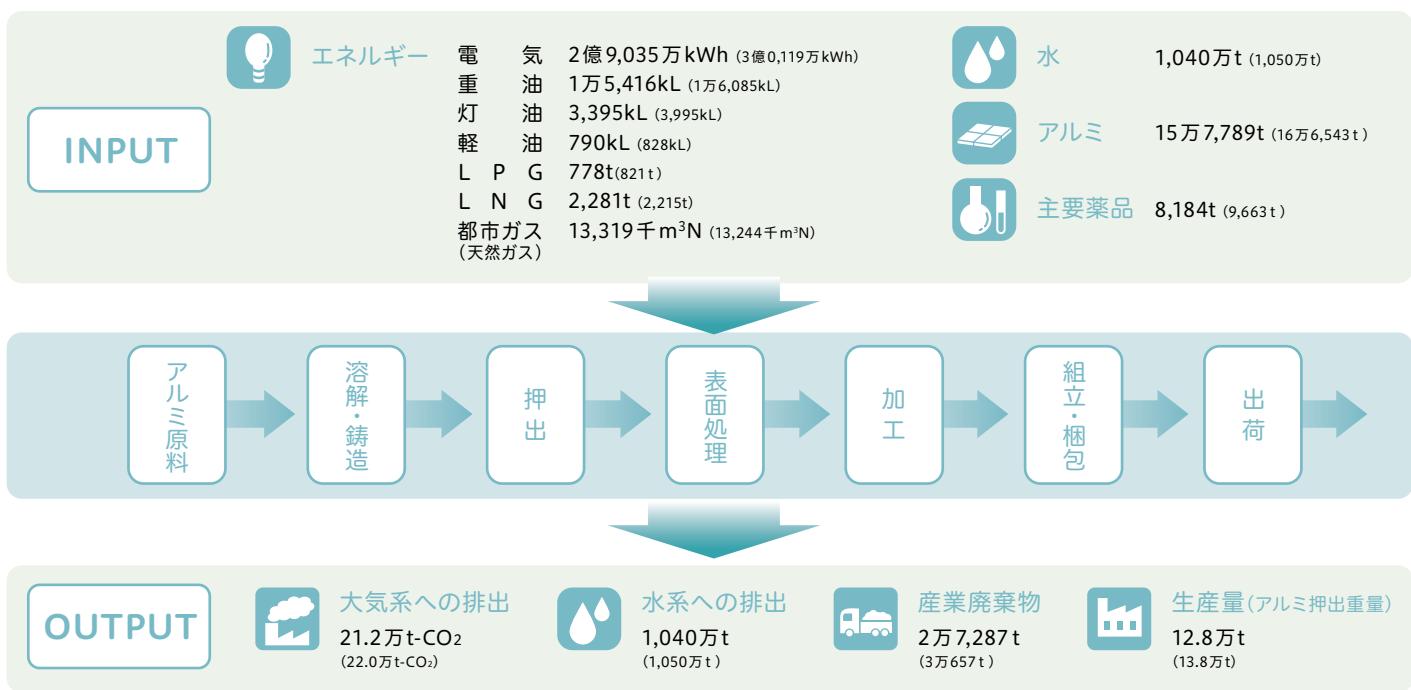
※環境報告ガイドライン2007年版準拠

※主要原料投入量、水資源投入量、PRTR対象物質取扱量、化学物質トルエンの排出量、化学物質キシレンの排出量の集計期間は4月1日～翌年3月31日

環境とのかかわり

当グループでは、主にリサイクルが容易なアルミニウムを材料とし、エネルギー・水・化学物質を使用して商品づくりを行っています。その過程として、資源の消費、廃棄物やCO₂の発生という形で、環境に負荷を与えてています。

このような負荷を低減するためのさまざまな活動を通じて、地域や地球の環境保全に取り組んでいます。



※()内は2013年度実績
※集計範囲…三協立山

環境行動目標と実績(1)

中期および2014年度の環境行動目標と実績は、下表のとおりです。

中期および2014年度の目標と2014年度の実績

環境方針	取り組み項目	中期環境行動目標 (2012年度～2014年度)	2014年度 目標	2014年度 実績	自己評価	掲載ページ
事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	・エネルギー使用量を2011年度比2014年度生産量原単位 全体で3%削減	・3%削減	・0.5%増加		P35
		・CO ₂ 排出量を2011年度比2014年度生産量原単位 全体で3%削減	・3%削減	・4.2%削減		P35
		(長期目標) ・CO ₂ 排出量を1990年度比2020年度 総量で20%削減	・15.2%削減	・19.1%削減	—	P35
		・輸送段階におけるCO ₂ 排出量を2011年度比2014年度輸送量(トンキロ)原単位 全体で3%削減	・3%削減	・3.9%増加		P36
	廃棄物対策	・工場部門の産業廃棄物 各年度のリサイクル率97%以上	・97%以上	・97.3%(全工場トータル)		P37
		・工場部門の産業廃棄物排出量を2011年度比2014年度 3%削減	・3%削減	・10.4%削減		P37
	省梱包の推進	・梱包副資材の使用量 各年度2011年度より削減	・削減	・12.2%削減		P37
	化学物質対策	・P R T R 対象物質の使用量を2011年度比2014年度 3%削減	・3%削減	・31%削減		P39
	環境配慮商品の充実・推進	・事務用品のエコ商品購入率2014年度までに80%以上に向上 ・グリーン調達ガイドラインの継続運用	・80%以上 ・グリーン調達ガイドラインの継続運用	・71%		—
		・環境・エコ分野商品の現領域強化と新領域への展開	・環境・エコ分野商品の現領域強化と新領域への展開	・断熱2商品、自然採風2商品開発 ・環境配慮商品売上比率81%		P22～28
		・全ての新規自社開発商品への環境配慮設計の実施	・全ての新規自社開発商品への環境配慮設計の実施	・新規開発商品は「環境配慮設計チェックリスト」で100%評価		P22
環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	・継続的な環境パトロールの実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件	・継続的な環境パトロールの実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件	・全ての工場、関連会社の環境パトロール実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件		P40
	産業廃棄物管理の徹底	・継続的な処理業者への視察 ・廃棄物処理法違反の発生件数0件	・継続的な処理業者への視察 ・廃棄物処理法違反の発生件数0件	・視察の実施(4件) ・廃棄物処理法違反の発生件数0件		P40
	情報開示 (CSR報告書の発行)	・年1回の発行 ホームページで公開	・年1回の発行 ホームページで公開	・「CSR報告書2014」の発行 ホームページで公開		—
	生物多様性の保全	・生物多様性ガイドラインの策定 ・森づくり活動の推進	・生物多様性ガイドラインの策定 ・森づくり活動の推進	・ガイドライン策定 ・森づくり活動実施		P33
環境コミュニケーションの促進	地域社会との共生、関係団体への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画	・関係諸団体への参加		P34
	環境教育	・環境講習会・セミナーの開催推進 ・環境家計簿の参加推進	・環境講習会・セミナーの開催推進 ・環境家計簿の参加推進	・環境家計簿の参加推進		P34

目標達成

目標未達成

環境行動目標と実績(2)

次期中期環境行動目標は、下表のとおりです。

次期中期環境行動目標(2015年度～2017年度)

環境方針	取り組み項目	次期中期環境行動目標(2015年度～2017年度)
事業活動における環境負荷低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量を2014年度比 2017年度生産量原単位 全体で3%削減
		<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量を2014年度比 2017年度生産量原単位 全体で3%削減
		<ul style="list-style-type: none"> (長期目標) <ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量を1990年度比 2020年度 総量で20%削減
		<ul style="list-style-type: none"> ・輸送段階におけるCO₂排出量を2014年度比 2017年度輸送量(トンキロ)原単位 全体で3%削減
	廃棄物対策	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物のリサイクル率 各年度 98%以上
充実・推進 環境配慮商品の	省梱包の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物排出量を2014年度比 2017年度 3%削減
	化学物質対策	<ul style="list-style-type: none"> ・梱包副資材の使用量 各年度 2014年度より削減
	グリーン調達の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・PRTR対象物質の使用量を2014年度比 2017年度 3%削減
対応 環境リスクへの 環境経営および 環境コミュニケーションの促進	環境配慮商品の開発推進	<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品のエコ商品購入率 2017年度までに80%以上に ・グリーン調達ガイドラインの継続運用
	環境配慮設計の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代省エネ基準義務化をクリアする高断熱商品の開発と環境配慮商品の強化
	環境管理、監視体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客視点による環境配慮設計の新指標策定
環境リスクへの 環境経営および 環境コミュニケーションの促進	産業廃棄物管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・法令違反・重大環境事故の発生件数 0件
	情報開示(CSR報告書の発行)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理法違反の発生件数 0件
環境コミュニケーションの促進	生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の発行 ホームページで公開
	地域社会との共生、関係団体への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・ツインリーフの森づくり活動の推進
	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・関係諸団体への継続的な参画
		<ul style="list-style-type: none"> ・環境家計簿およびグリーンカーテンコンテストの参加推進

環境コミュニケーション(1)

ツインリーフの森づくり

三協立山は、生物多様性の保護、CO₂の削減および地域の自然保護活動に貢献することを目的に、富山県が推奨する「企業の森づくり」に2013年4月から参画しています。当社の事業では、たくさんのエネルギーと水を使用しており、CO₂の排出や産業廃棄物の排出などによって、環境に対して負荷を与えています。その社会的責任としてCO₂排出削減などに取り組んでいますが、さらなる地球環境への貢献として、CO₂削減や水質保全など、たくさんの恩恵を与えてくれる森林に対する感謝の気持ちを込めて、森林保全のボランティア活動を従業員とその家族で行っています。

森づくり活動の内容は、高岡市の雑木林(市有地)3.5ヘクタールに、従業員とその家族で、毎年500本の苗木を5年間植樹し、根踏みや下草刈などの維持活動を15年間継続して森づくり活動を推進するというものです。

下草刈 2014年7月27日(日)参加者49名(子供5名)

開会式で、高岡市の副市長よりごあいさつをいただいたのち、前年11月に植樹した苗木周辺の笹や草を手鎌で刈りました。1時間ほどの作業で、草で覆われ隠れていた苗木がすっきりと姿を現しました。

参加者の声

- 森づくりは、下草刈などいろいろな活動があって進んでいくことをはじめて知りました。
- きれいになったところが見え、すがすがしさを感じた。
- 植えてある木のための作業と感じられ、楽しかったです。

植樹 2014年11月2日(日)参加者111名(子供43名)

開会式では、子供たちによって、森づくり活動の地に立てる標柱の除幕式を行いました。その後、コナラなどの苗木500本を植樹し、どんぐり拾いと鉢植え、わりばし工作のイベントを楽しみました。鉢植えしたどんぐりは、各家庭で育ててもらい、3年後に山へ植樹する予定です

参加者の声

- 苗木を持って山に登るのは大変でしたが、木を植えるのは楽しかった。
- 子供が喜んで植えていて良かった。
- 植樹した木が来年、再来年にどれくらい成長するか楽しみになりました。

根踏み 2015年4月26日(日)参加者64名(子供25名)

雪の重みで倒れた苗木を起こし、苗木と竹支柱をひもでしばり、しっかりと根付くよう根元を踏みしめました。作業後、伐採した木を利用してのしいたけの植菌と、わりばし工作のイベントを行いました。

参加者の声

- 冬の間に雪の中で耐えていた若い木が、少しづつ育っているのを見ると感動します。
- 子供が、山登りも根踏みも楽しい～と作業しながら言っている姿を見ると、来てよかったですと思いました。そばにある大きな木になつてほしいとすごく思いました。



参加者全員で記念撮影



暑い中での下草刈作業



環境コミュニケーション(2)

三協立山グループは、環境保全活動や環境負荷低減活動を地域社会、行政、従業員などのステークホルダーの方々と連携しながら推進しています。

グリーンカーテンコンテスト

従業員の環境意識の向上と家庭の節電やCO₂削減を目的として、「グリーンカーテンコンテスト」を実施しました。カーテンの出来栄えやアイデアなどが特に優れている作品を、優秀賞として選出し、景品を贈呈しました。

参加者の声

- リビングの東南にグリーンカーテンを設置し、クーラー 29度の設定で過ごしています。
- 室内から緑の葉やゴーヤを見ていると、心が癒されストレス解消になりました。
- 毎日成長して伸びてくるのを楽しみに、子供たちと水やりをしました。



グリーンカーテンコンテスト優秀賞

環境家計簿

当グループでは、より多くの従業員が環境について理解を深め、主体的に取り組むことができるよう、「環境家計簿」(家庭でのCO₂削減の取り組み: 2006年度より取り組み開始)を継続して実施しています。

現在までに延べ845世帯が参加しています。前年比でCO₂排出量を大きく削減するなど優秀な実績を上げた参加者には景品を贈呈し、家庭でのCO₂削減活動の活性化を促進しています。

今後もこれらを継続して実施し、環境に対する意識向上に努めています。



環境家計簿2014

とやま環境フェア

2014年10月に、「とやま環境フェア2014」が、富山県産業創造センター(高岡テクノドーム)で開催されました。このフェアは、エコライフをテーマに富山県などの主催で毎年開催されており、当社も毎年出展して、環境配慮商品の展示や環境への取り組みを紹介しています。



来場者への説明風景

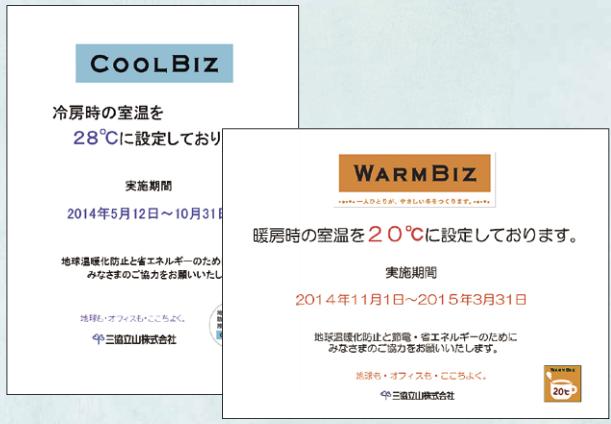
クールビズ、ウォームビズ運動

当グループは、環境省が地球温暖化防止国民運動として提唱する「クールビズ運動」、「ウォームビズ運動」に賛同し、2005年度より継続して実施しています。

2014年度は、クールビズ期間を5月12日～10月31日、ウォームビズ期間を11月1日～3月31日として実施しました。

[冷暖房設定温度] [服装]

クールビズ: 28°C クールビズ: ノーネクタイ、ノー上着
ウォームビズ: 20°C ウォームビズ: ネクタイ着用、寒い時は着る



クールビズ・ウォームビズ啓発ツール

地球温暖化対策(省エネルギー対策)(1)

三協立山グループは、地球環境問題を人類共通の最重要課題として認識しており、省エネ活動をはじめとする地球温暖化対策に継続的に取り組み、地道な活動を進めています。

CO₂排出量とエネルギー使用量

2014年度のCO₂排出量の総量は、2011年度比で8.9%(約21千t-CO₂)の削減、1990年度比では19.1%(約50千t-CO₂)の削減となりました。これは、主に重油・灯油からLNGへの燃料転換と日頃からの地道な省エネ活動などを実施したことによります。(エネルギー使用量は2011年度比4.4%削減)

生産量原単位について、CO₂排出量原単位は2011年度比で4.2%削減、エネルギー使用量原単位は0.5%増加となりました。

CO₂排出量と生産量原単位の推移



良

エネルギー使用量と生産量原単位の推移



良

生産量の推移



省エネルギー部会の開催

省エネルギー活動の中期環境行動目標の達成に向けて、工場部門、物流部門および事務部門の改善を推進するために、年2回(7月と1月)開催しています。改善成功事例については、水平展開を図っています。



省エネルギー部会

地球温暖化対策(省エネルギー対策)(2)

輸送部門でのCO₂排出量

2014年度は、輸送量(重量×距離)が減少したため、CO₂排出量は、2011年度比2.5%減(414t-CO₂減少)となりました。CO₂排出量の輸送量原単位は、積載効率が低い貸切便が増えたため、2011年度比3.9%増加となりました。

省エネルギー活動事例

冷却設備の制御改造による電力使用量削減

福岡工場では、冷却設備の制御を改造することで電力使用量を削減しました。当工場の冷却設備は冷凍機、クーリングタワーおよびポンプ類で構成され、皮膜処理槽内の薬液冷却を行っています。冷凍機は2台あり、冷凍機1号を主とした台数制御運転となっており、冷凍機2号は冷凍機1号の負荷状況と処理槽温度条件により自動起動します。しかし、冷凍機2号系のポンプ類、クーリングタワー用ファンは、冷凍機2号が停止していても常時運転しており、無駄な電力を使用していました。今回、冷凍機2号の運転に合わせたポンプ類、クーリングタワー用ファンの自動ON・OFF制御化の改造を行い、冷凍機2号の停止時における無駄な電力使用量を削減することができました。

営業車のガソリン使用量削減

全社有車を対象とした「エコドライブコンテスト」を実施し、燃費向上を競い合いました。また、低燃費車の導入も進めた結果、2014年度のガソリン使用量は2011年度比14.2%(202kl)削減しました。

節電活動

2014年夏、当社は電力の使用抑制のため、以下の節電活動に取り組みました。

<生産拠点における節電対応策>

- 工場の一部押出・皮膜ライン等における勤務体制を見直し、休業日を現状の土曜・日曜から日曜・月曜にシフト実施(7月下旬～9月上旬)

- 工場内照明、空調およびコンプレッサー等関連設備の節電推進

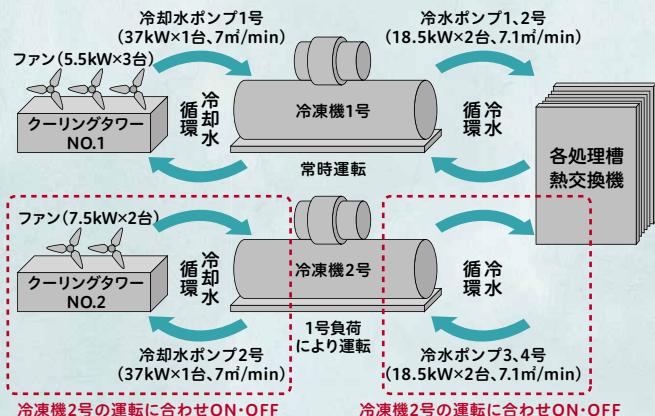
<本社・各営業拠点における節電対応策>

- 全社クールビズ活動期間を例年より拡大実施(5月中旬～10月末)
- エアコン使用時の室内温度を28°Cに設定
- 照明のLED化推進および不使用エリアの消灯を徹底
- 自動販売機の運転時間を短縮
- パソコンのモニター輝度を約60%ダウン
- 離席時のパソコン省電力モード活用推進と帰宅時のパソコン・プリンターの電源OFFの徹底

輸送部門のCO₂排出量と原単位



●冷却設備概略図



営業車のガソリン使用量



●全支店の節電活動実績(2014年7～9月)

- ・電力使用量(kWh) :
- 2010年度比 29%削減(震災前と比較)

2014年度電力使用量(2010年度比)



廃棄物と省梱包

廃棄物対策

三協立山グループは、生産工程から定常に発生する産業廃棄物の排出量抑制とリサイクル率向上に取り組んでいます。

産業廃棄物排出実績

2014年度の産業廃棄物排出量は、2011年度比10.4%削減(3.2千t減)となりました。これは皮膜工程で発生する廃酸の排出量を削減したことによるものです。リサイクル率については、鋳造部門で埋立量が減ったことにより、全体の埋立量は2011年度比12.3%削減(152t減)し、リサイクル率は97.3%でした。

ゼロエミッション達成状況

2014年度は、13工場中11工場でゼロエミッション(リサイクル率97%以上)を達成しました。

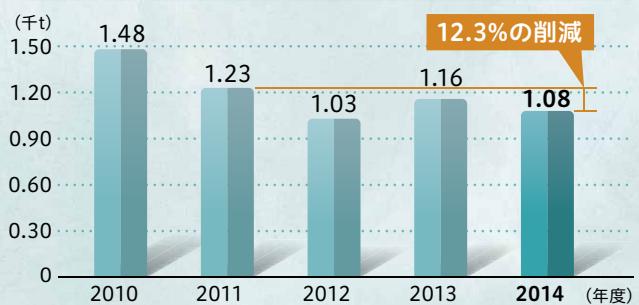
オフィス部門での取り組み

三協立山の本社では、事業系一般廃棄物の削減に取り組んでいます。2014年度は古紙分別の徹底により、2011年度比24.2%削減(22t減)しました。

産業廃棄物排出量とリサイクル率の推移



産業廃棄物埋立量の推移



一般廃棄物排出量の推移



省梱包への取り組み

省梱包への取り組みとして、梱包資材の削減、梱包レスの推進、材質転換・統一化の3つの柱を掲げ、活動しています。

活動事例：フェンスの梱包改善

従来、側面に配置されていた同梱部品を格子部分に変更することで、外装ダンボールの削減を図ることができました。これにより年間約28tの廃棄物削減となりました。



改善前



改善後

ダンボール削減

水資源対策／法規制遵守

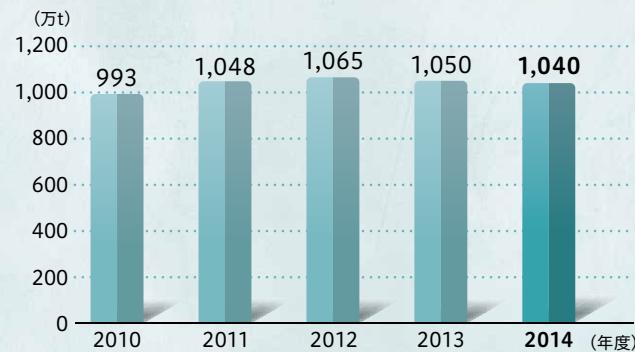
三協立山グループは、環境に関する法規制の遵守を基本として、事業活動を進めています。事業活動に係わる法律や各地域における協定などの遵守はもちろんのこと、より厳しい自主基準を設けて管理しています。

水資源対策

水資源対策として工業用水、地下水などの使用量削減に取り組んでいます。

2014年度の水資源使用量は、前年度比1.0%削減(10万t減)となりました。これは水資源を多量に使用する皮膜工程での生産量が減少したことによるものです。

水資源使用量の推移



PCB管理

当グループでは、PCBを含む電気工作物、安定器についてPCB廃棄物特別措置法に準拠して適正に処理、保管および管理を行っています。

高濃度PCB廃棄物については、処理可能なものは2014年度に全て完了しました。微量PCB廃棄物については、適正に保管および管理を行っています。

PCB管理対象機器台数一覧 (2015年3月31日現在)

単位:台

拠点名	高濃度PCB廃棄物		微量PCB 混入廃棄物 台数 (分析サンプル除外)	微量PCB 混入使用中 電気工作物 台数	微量PCB 混入の可能性 がある 電気工作物台数
	電気工作物 台数	安定器台数			
新湊	0	0	1	7	21
佐加野	0	0	0	0	0
福光	0	0	8	0	2
福岡	0	0	11	24	0
氷見	0	0	0	1	0
福野	0	0	4	3	2
福岡西	0	0	0	1	0
射水	0	0	3	11	1
高岡	0	0	3	0	0
高岡西	0	0	0	0	0
石川	0	0	0	0	0
新湊東	0	0	0	0	0
奈吳	0	0	1	0	0
横浜	0	0	0	0	0
三協立山本社	0	0	11	0	0
三協立山本社別館	0	0	0	0	0
長慶寺(本社管轄)	0	0	19	0	0
奈吳物流センター	1	0	5	0	0
協立アルミ	0	0	12	1	0
三協化成	0	0	1	0	0
三協工機	0	0	0	0	0
サンクリエイト	0	0	0	0	0
三精工業	0	0	0	0	12
STメタルズ	0	0	0	0	0
サンユー	0	0	4	0	0
合計	1	0	83	48	38

*上記集計表には、使用中の蛍光灯安定器で、PCB含有有無が未確認のものについては含まれていません。



搬出するPCB廃棄物入りペール缶(奈吳物流センター)



中間貯蔵・環境安全事業(株)へのPCB廃棄物搬出作業

化学物質対策

三協立山グループは、PRTR^{*}対象物質の管理および使用量の削減に努めています。

^{*}PRTR(Pollutant Release and Transfer Register : 環境汚染物質排出・移動登録)

化学物質管理

関連会社も含めた2014年度のPRTR法に基づく報告対象物質の取扱量の合計は、541.1tです。このうち、大気、水域への排出量は、取扱量の37%(200.5t)に相当し、その内の多く(177.2t)が大気に排出されています。(公共水域への排出量は23.3t)

大気排出量が多い物質は、塗装工程の溶剤であるトルエン、キシレン、エチルベンゼンの3物質で、大気排出量の86%(152.3t)を占めています。

以下にPRTR届出義務対象物質の排出量、移動量などを示します。

PRTR届出義務対象物質(関連会社含む)

集計期間:2014年4月~2015年3月

(単位:t/年 ただし、ダイオキシン類はmg-TEQ)

番号	化学物質名	主な用途	取扱量	排出量			移動量		除去処理量	消費量
				大気	水域	土壤	リサイクル	廃棄物		
31	アンチモンおよびその化合物	難燃剤	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
53	エチルベンゼン	製品塗装、車両燃料	36.8	32.3	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0
80	キシレン	製品塗装、車両燃料	74.6	67.3	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	2.8
87	クロムおよび3価クロム化合物	アルミニレットの原料に配合	25.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	25.3
186	ジクロロメタン	ラッピング接着	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
243	ダイオキシン類	—	—	64.5	0.34	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	製品塗装	9.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	製品塗装、車両燃料	7.1	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	製品塗装	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	製品塗装、車両燃料	73.0	52.7	0.0	0.0	20.3	0.0	0.0	0.0
305	鉛化合物	製品塗装、アルミニレットの原料に配合	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.6
308	ニッケル	表面処理	9.3	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	8.9
309	ニッケル化合物	表面処理	27.5	0.0	3.0	0.0	0.5	1.4	0.0	22.6
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	シーリング剤、塩ビの可塑剤	153.9	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	0.0	149.3
374	フッ化水素およびその水溶性塩	アルミニレット铸造時の溶湯除済剤	8.9	0.4	2.2	0.0	0.1	0.0	0.0	6.2
392	ノルマルヘキサン	シーリング剤付着ハケの洗浄	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
405	ホウ素およびその化合物	表面処理	21.0	0.0	17.9	0.0	0.4	0.7	0.0	2.0
412	マンガンおよびその化合物	アルミニレットの原料に配合	49.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	48.8
438	メチルナフタレン	各種炉燃料	11.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.6
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	ラッピング接着、発泡ウレタン	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	18.5
合 計			541.1	177.2	23.3	0.0	35.1	4.8	0.0	300.8

※上記集計表には、PRTR届出に必要な取扱量に達していない事業所の実績は含まれていません。

*リサイクル:対象物質を再生業者に引き渡した量

*除去処理量:除去処理を目的に対象物質が中和・分解・反応処理などにより他の物質に変化させた量

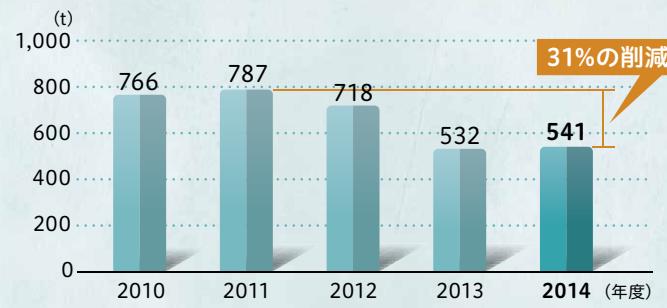
*消費量:対象物質が反応原料として消費された量、または製品に含有もしくは付着して場外に持ち出される量

化学物質使用量

当グループでは、「化学物質ガイドライン」を制定し、運用しています。「化学物質ガイドライン」運用の目的は、商品に使用する部品・部材などに含有する環境負荷物質について、使用禁止レベル(禁止・削減・管理)を明確にし、環境品質を維持・向上することです。

2014年度の化学物質使用量は、PRTR対象物質において、2011年度比31%(246t)の削減となりました。主な理由は、ラッピング接着工程の溶剤であるジクロロメタンの代替化を進めたこと、燃料において重油の一部を天然ガスに転換したことによるものです。

PRTR対象物質使用量



環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムは、構築したシステムを継続的にレベルアップしていくことが重要です。このことが社会的責任を果たすことであると考え、さらに環境マネジメントシステムを充実させていきます。

ISO14001の認証取得

三協立山では、2008年度までに全ての工場および生産系関連会社において、ISO14001を認証取得しました。

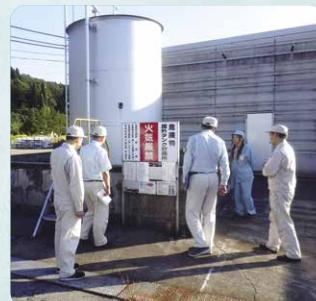
ISO14001の取得は、環境マネジメントシステム構築の基本となるため、維持更新を図り、継続的にレベルアップに努めています。

環境パトロールの実施

当グループでは、環境事故の未然防止、環境保全意識の向上および法令遵守を目的に、毎年関連会社も含めて全工場の環境パトロールを実施しています。契約書類、届出書類などが法令に準拠しているか、環境測定データが基準値を外れていないか、タンク類が液漏れを起こす危険性がないかなどについて書類チェックおよび現場確認を行っています。

2014年度は、21工場を視察しましたが、法令違反等はありませんでした。一部、軽微な指摘事項については、迅速に改善しています。

今後も環境パトロールを継続して実施し、環境事故の未然防止に努めています。



水見工場



三協化成

産業廃棄物処理業者の視察

当グループでは、グループ内から排出された産業廃棄物が法令に準拠して適正に処理されているか確認するため、毎年計画的に産業廃棄物処理業者の視察を実施しています。

2014年度は、4業者を視察しましたが、いずれの業者も適正に処理していることが確認できました。

今後も継続的に視察を実施し、産業廃棄物の適正処理の確認に努めています。



視察風景



緊急事態への対応(奈吳工場の例)

奈吳工場では、毎年地震・火災・人災を想定した緊急事態対応の訓練を実施しています。

今回はフォークリフトの運転操作を誤り、冷却水タンクの側面をフォークリフトの爪で破損させたことによる、高アルカリ液の漏洩を想定した訓練を実施しました。

今後も毎年、訓練を繰り返し行うことで有事の際に各人がどういう行動を取るべきかを再確認していきます。



高アルカリ液流出防止訓練



生産事業者・主要関連会社の環境管理データ(2014年度)

三協アルミ社

工場名		新湊		佐加野		福光		福岡		
項目										
所在地		富山県射水市新堀23-1		富山県高岡市佐加野2-2		富山県南砺市小林100		富山県高岡市福岡町矢部1		
敷地面積	m ²	403,588		149,023		118,215		112,568		
建物延面積	m ²	155,847		79,963		55,308		58,613		
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	8,307		2,512		3,174		11,523		
エネルギー使用量	GJ	177,570		50,652		61,029		313,248		
産業廃棄物排出量	t	838		31		124		3,848		
産業廃棄物リサイクル率	%	98.9		100		98.1		100		
水資源使用量	t	622,745		121,358		37,148		694,801		
排出ガス	SOx濃度	ボイラー ppm	—	【490以下】	29.1	—	—	—	—	
	ばいじん	ボイラー g/m ³ N	【0.2以下】	<0.01	【0.15以下】	<0.01	—	【0.1以下】	<0.01	
	乾燥炉	g/m ³ N	—	—	—	—	【0.2以下】	<0.01	—	
	加熱炉	g/m ³ N	—	—	—	—	【0.2以下】	<0.01	—	
	窒素酸化物	ボイラー ppm	【150以下】	47	【180以下】	150	—	【150以下】	29	
	乾燥炉	ppm	—	—	—	—	【230以下】	16	—	
	加熱炉	ppm	—	—	—	—	【180以下】	42	—	
公共用 水域	pH	—	【6.0～8.5】	6.6～8.3	【6.5～8.5】	6.0～8.5 ^⑥	【5.8～8.6】	7.5	【5.8～8.6】	7.1～7.5
	BOD	mg/l	—	—	【20以下】	13.0	【20以下】	2	【20以下】	18.0
	COD	mg/l	【20以下】	8.4	【20以下】	5.7	—	【160以下】	9.6	—
	SS	mg/l	【50以下】	6.6	【30以下】	7.4	—	【30以下】	8.8	—
	油分	mg/l	【3以下】	<0.5	【3以下】	<0.5	—	【5以下】	<1	—
	ホウ素	mg/l	【10以下】	0.3	—	—	—	—	—	—
	クロム	mg/l	【2以下】	<0.2	—	—	—	—	—	—
	六価クロム	mg/l	【0.5以下】	<0.02	—	—	—	—	—	—
	フッ素	mg/l	【15以下】	<0.8	—	—	—	—	—	—
	全窒素	最大 mg/l	【60以下】	3.6	【60以下】	6.9	—	【120以下】	21	—
P R T R 取 扱 量	全りん	最大 mg/l	【8以下】	0.3	【8以下】	0.7	—	【16以下】	2.5	—
	エチルベンゼン	t	6.4	—	—	—	—	—	—	—
	キシレン	t	16.0	—	—	—	—	—	—	—
	ジクロロメタン	t	—	—	—	—	—	1.0	—	—
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	3.5	—	—	—	—	—	—	—
	トルエン	t	34.0	—	—	—	—	—	—	—
	ニッケル	t	—	—	—	—	—	0.9	—	—
	ニッケル化合物	t	2.7	—	—	—	—	—	—	—
	ノルマルヘキサン	t	1.1	—	—	—	—	—	—	—
	ホウ素およびその化合物	t	—	—	—	—	—	9.2	—	—
	メチルナフタレン	t	—	—	—	—	—	—	—	—

①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等もしくはより厳しい値に設定しています。

②「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。

③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫黄酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

⑥佐加野工場のpH基準値外は、酸性雨によるものです。その後の測定結果では基準値内となっています。

生産事業者・主要関連会社の環境管理データ(2014年度)

三協アルミ社

タテヤマアドバンス社

工場名		氷見		福野		射水		横浜	
項目									
所在地		富山県氷見市上田41-2		富山県南砺市本江2600-1		富山県射水市奈呉の江13-3		神奈川県横浜市金沢区大川6-1	
敷地面積	m ²	68,575		118,012		266,175		29,386	
建物延面積	m ²	21,558		53,157		131,646		12,318	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	699		2,970		87,612		657	
エネルギー使用量	GJ	13,610		55,373		1,908,275		17,460	
産業廃棄物排出量	t	24		13		19,831		55	
産業廃棄物リサイクル率	%	100		100		98.0		100	
水資源使用量	t	3,566		64,640		6,396,665		2,589	
排出ガス	SOx濃度	ボイラー ppm	—	—	—	—	—	—	—
	ばいじん	ボイラー g/m ³ N	【0.03以下】 0.01	【0.15以下】 0.01	【0.1以下】 0.06	—	—	—	—
	乾燥炉	g/m ³ N	—	—	【0.15以下】 <0.02	—	—	—	—
	加熱炉	g/m ³ N	—	—	【0.15以下】 0.09	—	—	—	—
	窒素酸化物	ボイラー ppm	【140以下】 98	【150以下】 100	【180以下】 78	—	—	—	—
	乾燥炉	ppm	—	—	【230以下】 110	—	—	—	—
	加熱炉	ppm	—	—	【180以下】 89	—	—	—	—
公共用 水域	pH	—	【5.8~8.6】 6.6~7.5	【5.8~8.6】 6.9	【6.0~8.5】 6.0~8.5	—	—	—	—
	BOD	mg/l	【30以下】 4.7	【20以下】 1.5	【20以下】 14	—	—	—	—
	COD	mg/l	—	—	【20以下】 3.3	—	—	—	—
	SS	mg/l	【50以下】 4.0	【10以下】 5.0	【50以下】 10	—	—	—	—
	油分	mg/l	【15以下】 <1	【15以下】 ND	【2以下】 1	—	—	—	—
	ホウ素	mg/l	—	—	【10以下】 3.8	—	—	—	—
	クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	六価クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	フッ素	mg/l	—	—	【8以下】 0.4	—	—	—	—
	全窒素	最大 mg/l	—	—	—	—	—	—	—
P R T R 取扱量	全りん	最大 mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	キシレン	t	1.3	—	—	—	—	—	—
	トリエチルアミン	t	—	—	8.5	—	—	—	—
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	1.5	—	—	—	—	—	—
	ニッケル	t	—	—	5.8	—	—	—	—
	ニッケル化合物	t	—	—	23.0	—	—	—	—
	ホウ素およびその化合物	t	—	—	5.7	—	—	—	—
メチレンビス(4,1-フェニレン)ジイソシアネート		t	4.3	—	—	—	—	—	—

①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等もしくはより厳しい値に設定しています。

②「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。

③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫黄酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

生産事業者・主要関連会社の環境管理データ(2014年度)

三協マテリアル社

項目	工場名	高岡		新湊東		石川		奈吳		戸出		
所在地		富山県高岡市北島851	富山県射水市新堀28-1	石川県羽咋郡宝達志水町杉野屋ぬ-1-1	富山県射水市奈吳の江8-3	富山県高岡市戸出春日802						
敷地面積	m ²	95,825	78,264	146,963	151,457	12,653						
建物延面積	m ²	56,385	13,398	42,195	41,879	6,035						
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,359	6,124	15,178	68,128	1,323						
エネルギー使用量	GJ	29,675	138,617	413,247	1,126,694	30,917						
産業廃棄物排出量	t	49	11	1,760	665	39						
産業廃棄物リサイクル率	%	100	41.2	100	87.8	97.9						
水資源使用量	t	95,825	85,395	601,775	1,360,584	27,914						
SOx濃度	ボイラー	K値	56,385	—	【8.00以下】	ND	—	—	—	—	—	
	乾燥炉	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—	—	—	—	
	加熱炉	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—	—	—	—	
	溶解炉	m ³ N/Hr	—	—	—	【4.56】	0.66	—	—	—	—	
ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	—	—	【0.1以下】	<0.01	—	—	—	—	—	
	乾燥炉	g/m ³ N	—	—	【0.2以下】	<0.01	—	—	—	—	—	
	加熱炉	g/m ³ N	—	【0.2以下】	0.02	【0.2以下】	<0.01	【0.15以下】	0.02	—	—	
	溶解炉	g/m ³ N	—	—	—	—	【0.15以下】	0.08	—	—	—	
窒素酸化物	ボイラー	ppm	—	—	【150以下】	25	—	—	—	—	—	
	乾燥炉	ppm	—	—	【230以下】	24	—	—	—	—	—	
	加熱炉	ppm	—	【180以下】	15	【180以下】	103	【120以下】	73	—	—	
	溶解炉	ppm	—	—	—	—	【150以下】	91	—	—	—	
ダイオキシン	溶解炉	ng-TEQ/m ³ N	—	—	—	—	【5以下】	0.2	—	—	—	
公共用 水域	pH	—	【5.8~8.6】	6.7~8.4	【5.8~8.6】	6.9~7.7	【5.8~8.6】	6.9~7.4	【5.5~8.5】	6.9~7.7	【5.8~8.6】	7.8
	BOD	mg/l	【20以下】	16	—	【30以下】	4.4	—	—	【25以下】	17	
	COD	mg/l	—	—	—	—	【20以下】	5.5	—	—	—	
	SS	mg/l	【100以下】	11	—	【30以下】	4.0	【50以下】	27	【120以下】	16	
	油分	mg/l	【5以下】	0.9	【5以下】	<0.5	【5以下】	1.0	【3以下】	0.9	【15以下】	2
	ダイオキシン	pg-TEQ/L	—	—	—	—	【10以下】	0.2	—	—	—	
P R T R 取 扱 量	キシレン	t	—	—	—	1.6	—	—	—	—	—	
	クロムおよび3価クロム化合物	t	—	—	—	—	—	25.7	—	—	—	
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	—	—	—	2.1	—	—	—	—	—	
	ニッケル	t	—	—	—	2.2	—	—	—	—	—	
	ニッケル化合物	t	—	—	—	1.8	—	—	—	—	—	
	フッ化水素およびその水溶性塩	t	—	—	—	1.3	—	7.6	—	—	—	
	ホウ素およびその化合物	t	—	—	—	2.5	—	2.8	—	—	—	
	マンガンおよびその化合物	t	—	—	—	—	—	49.5	—	—	—	
	メチルナフタレン	t	—	—	—	—	—	10.7	—	—	—	

①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等もしくはより厳しい値に設定しています。

②「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。

③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫黄酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

生産事業者・主要関連会社の環境管理データ(2014年度)

関連会社

項目	工場名	協立アルミ	三協化成	STメタルズ(西朴木)	STメタルズ(海老坂)
所在地	富山県南砺市久戸10	富山県高岡市福岡町下向田3-1	富山県氷見市西朴木38	富山県氷見市上田子字笹谷内58	
敷地面積	m ²	116,000	66,743	41,996	110,240
建物延面積	m ²	62,000	16,435	14,684	11,514
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,890	3,572	601	782
エネルギー使用量	GJ	53,964	54,183	9,374	12,129
産業廃棄物排出量	t	1,865	157,336	23	843
産業廃棄物リサイクル率	%	99.0	97.1	99.2	99.1
水資源使用量	t	40,386	146,539	1,650	1,941
公共用 水域	pH	—	[5.8~8.6] 6.7	[5.8~8.6] 8.1	[5.8~8.6] 7.4~10.1 ^⑦
	BOD	mg/l	[20以下] 1.3	[10以下] 1.4	[160以下] 5.9
	COD	mg/l	—	—	[160以下] 14.0
	SS	mg/l	[70以下] <1	[10以下] <2	[70以下] 3
	油分	mg/l	[5以下] <1	[3以下] <0.5	[3以下] <1
	クロム	mg/l	—	—	—
	六価クロム	mg/l	—	—	—
	亜鉛	mg/l	—	—	—
	溶解性鉄	mg/l	—	—	—
P R T R 取 扱 量	シアノ	mg/l	—	—	—
	アンチモン	t	—	1.6	—
	キシレン	t	—	—	—
	ジクロロメタン	t	6.5	—	—
	トリメチルベンゼン	t	—	—	—
	鉛化合物	t	—	0.3	—
	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	t	—	153.3	—
M E R R 取 扱 量	メチレンビス(4,1-フェニレン)-ジイソシアネート	t	14.6	—	—

項目	工場名	サンクリエイト	三精工業(本社)	三精工業(有磯)	石川精機
所在地	富山県南砺市岩武新80番地の1	富山県射水市奈呂の江13番地の8	富山県射水市有磯二丁目33番地の4	愛知県西尾市寺津町五十間7	
敷地面積	m ²	47,082	46,326	44,236	11,119
建物延面積	m ²	7,672	30,533	16,150	6,030
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,238	2,948	1,610	2,154
エネルギー使用量	GJ	44,802	47,107	24,779	50,156
産業廃棄物排出量	t	71	1,020	443	69
産業廃棄物リサイクル率	%	83.0	86.9	98.8	18.3
水資源使用量	t	5,642	333,022	125,648	3,181
公共用 水域	pH	—	[6.0~8.0] 6.8~7.4	[6.0~8.0] 6.5~7.2	—
	BOD	mg/l	—	—	—
	COD	mg/l	—	[20以下] 9.6	[20以下] 8.3
	SS	mg/l	—	[20以下] 10.0	[20以下] 14.0
	油分	mg/l	—	[3以下] 1.9	[3以下] 1.3
	クロム	mg/l	—	—	[0.3以下] ND
	六価クロム	mg/l	—	—	[0.15以下] ND
	亜鉛	mg/l	—	—	[3以下] 1.4
	溶解性鉄	mg/l	—	—	[5以下] 0.3
P R T R 取 扱 量	シアノ	mg/l	—	—	[0.25以下] ND
	エチルベンゼン	t	—	30.3	—
	キシレン	t	—	54.1	—
	1,3,5-トリメチルベンゼン	t	—	2.0	—
	トルエン	t	—	37.0	—
	鉛化合物	t	—	—	—

⑦ STメタルズ(海老坂)のpH基準値超過は、水中の藻の影響によるもので、排水自体は問題ありません。

環境会計

三協立山では、環境省発行の環境会計ガイドラインに基づき、環境保全に係わる費用と効果を定量的に把握して、環境投資と効果を評価しています。

2014年度環境会計結果

環境保全コスト

単位:千円

環境保全コストの分類	コスト項目の主な内容	設備投資		費用	
		2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
1. 事業エリア内コスト	事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト	457,819	239,196	562,390	445,000
内 訳	1)公害防止コスト	1,367	3,317	155,679	144,661
	2)地球環境保全コスト	455,952	235,578	113,510	615
	3)資源循環コスト	500	301	293,201	299,724
2. 上・下流コスト	グリーン購入など事業エリアの上流側で発生する環境負荷抑制のために必要なコスト	0	0	75	0
3. 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用のためなどに必要なコスト	0	0	91,532	86,261
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制に係わる製品の研究開発に必要なコスト	398,311	775,929	317,538	556,124
5. 社会活動コスト	地域住民の行う環境活動などへの寄付、支援のためのコスト	0	0	4,187	5,291
6. 環境損傷コスト	自然修復のために必要なコスト	0	0	0	0
合 計		856,130	1,015,125	975,722	1,092,676

環境保全効果(CO₂換算)

単位:千円

効果の内容	2013年度		2014年度	
	環境負荷削減量 (t-CO ₂)	前年度比削減率 (%)	環境負荷削減量 (t-CO ₂)	前年度比削減率 (%)
二酸化炭素	308	0.1	9,354	4.2

環境負荷総量内訳

単位:t-CO₂

	2012年度	2013年度	2014年度
電気	124,388	122,758	116,742
重油	49,588	47,628	45,658
軽油	2,032	2,140	2,042
灯油	13,242	9,945	8,452
ガソリン	81	84	86
LPG	2,459	2,462	2,333
LNG	2,662	5,986	6,165
都市ガス	27,306	30,446	30,618
合計	221,758	221,450	212,096

2014年度環境会計の分析

2014年度の環境保全コストとして、設備投資に10億15百万円、費用に10億93百万円を投入しました。設備投資の主なものとして環境配慮商品を開発するための設備投資に7億76百万円、費用の主なものとして、廃棄物処理などに3億円投入しました。

設備投資は、2013年度に比べて、1億59百万円増加、費用は、1億17百万円増加しました。

環境保全効果(CO₂換算)の削減量は、9千t-CO₂で、削減率は4.2%でした。

環境保全対策に伴う経済効果は、3億49百万円で、2013年度比11.6%増加しました。

環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	2012年度	2013年度	2014年度
1. 省エネによるコスト削減	74,358	125,371	119,754
2. 有価物売却益	230,654	186,619	228,698
3. ダンボール、緩衝材などの削減	4,597	591	451
合 計	309,609	312,581	348,903

環境会計要約情報の直近3年間の推移

	2012年度	2013年度	2014年度
1. 環境保全コスト			
投資額(千円)	376,226	856,130	1,015,125
費用額(千円)	978,271	975,722	1,092,676
2. 環境保全効果に関する環境パフォーマンス指標			
総エネルギー投入量(千GJ)	4,481	4,576	4,393
水資源投入量(万t)	1,065	1,050	1,040
CO ₂ 排出量(万t-CO ₂)	22.2	22.1	21.2
産業廃棄物排出量(万t)	3.0	3.1	2.7
総排水量(万t)	1,065	1,050	1,040
3. 環境保全対策に伴う経済効果			
実質的効果(千円)	309,609	312,581	348,903

●集計期間…2014年6月1日～2015年5月31日

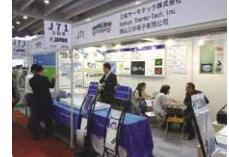
●集計範囲…三協立山

環境保全活動の歩みとグループのこの一年

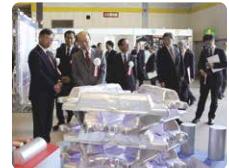
〈環境保全活動の歩み〉

- 1967年 ●公害対策基本法制定
- 1971年 ●本社技術部に公害防止対策部署を設置
[三協アルミ](以降 各工場に環境保全課を設置)
- 1993年 ●環境基本法制定
 - ボランタリープラン策定[三協アルミ]
(環境理念・環境スローガンの制定)
- 1996年 ●特定フロン全廃完了
- 1998年 ●福光、福野工場の表面処理設備廃止
- 1999年 ●立山合金 石川工場(現 石川工場) ISO14001認証取得
 - 全社の環境方針制定[三協アルミ]
(課題別委員会の設置、活動開始)
- 2000年 ●循環型社会形成推進基本法の制定
 - 新湊工場、氷見工場 ISO14001認証取得
 - 佐加野工場の表面処理設備廃止
 - 本社生産本部に環境対策部を設置[立山アルミ]
- 2001年 ●環境報告書の発行[三協アルミ]
 - グループ全社でトリクロロエチレンの使用を全廃
 - 福野工場、佐加野工場 ISO14001認証取得
 - 富山軽金属(現 射水工場) ISO14001認証取得
 - 富山合金(現 奈良工場) ISO14001認証取得
 - 社内向け「環境宣言」発表[立山アルミ]
(テーマ別委員会の設置、活動開始)
- 2002年 ●行動指針の社員カード発行[三協アルミ]
 - 高岡工場 ISO14001認証取得
- 2003年 ●「環境への取り組み」をホームページに掲載[立山アルミ]
 - 福光工場、福岡工場 ISO14001認証取得
- 2004年 ●三協化成 ISO14001認証取得
- 2005年 ●新湊マテリアル工場(現 射水工場)、新湊工場
都市ガス(天然ガス)の導入
- 2006年 ●三精工業、三協工機、サンクリエイト、協立アルミ、
タテヤマメタックス(現 STメタルズ西日本工場)
ISO14001認証取得
- 2007年 ●横浜工場 ISO14001認証取得
- 2008年 ●「チーム・マイナス6%」参加
 - 横浜工場 ISO14001を拡大取得
- 2010年 ●富山合金 三協マテリアルに統合(現 奈良工場)
- 2011年 ●タテヤマアドバンス横浜工場めっき事業廃止
- 2013年 ●福岡工場、石川工場 天然ガスの導入
 - 高岡市と「森づくり」活動に関する協定調印
(森づくり活動開始)
- 2014年 ●グループ全社で高濃度PCB処理完了
- 2015年 ●全工場において産業廃棄物「電子マニフェスト」を運用

〈グループのこの1年〉

- 2014年
- 6月 ●三協立山 三協工機株を吸収合併(現 戸出工場)
 - 7月 ●三協アルミ
「UB アーチハンドル」「スマージュ/トリプルスマージュ」が
「第8回キッズデザイン賞」を受賞
 - 三協立山 石井県知事が植物工場訪問
 - 8月 ●三協立山 第69回定時株主総会
 - 9月 ●三協立山「三協サーモテック株」始動
 - タテヤマアドバンス
「サイン&ディスプレイショウ 2014」
に出展
 - 三協立山 広島市豪雨災害へ義援金
寄贈
 - 10月 ●三協立山
「スマージュ/トリプルスマージュ」「ライアーレ」「歩行補助車」
が「2014年度グッドデザイン賞」を受賞
 - 三協アルミ
「富山県デザイン展」で「S.ボーダー」が県知事賞受賞
 - 11月 ●三協アルミ
 - 「ARM-Sアタッチメントシリーズ」が
「第4回HEADベストセレクション賞」を受賞
 - 三協立山「ツインリーフの森づくり」植樹活動を実施
 - 三協アルミ デザインポーチライト「sou」
「第52回富山県発明とくふう展」で高岡市長賞を受賞
 - 三協マテリアル・佛山三協電子有限公司(三協サーモテック)・
立山貿易(上海)有限公司(タテヤマアドバンス)
「2014日系自動車部品展示会 at
広州モーターショー」に3社共同出展

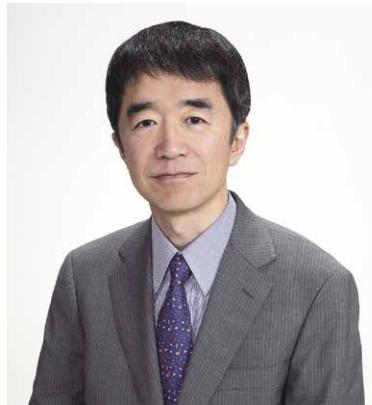
2015年

 - 1月 ●三協マテリアル
「nano tech 2015」に出展
 - 2月 ●三協アルミ「ACETECH 2014(インド)」に出展
 - 三協アルミ 首都圏ショウルームグランドオープン
 - 三協マテリアル「第3回[国際]風力発電展」に出展
 - 3月 ●三協立山 Thai Metal Aluminium Co.,Ltdを子会社化
 - 三協立山
Aleris International,Inc.からアルミニウム押出事業の事業
譲受
 - 三協アルミ
「第20回建築・建材展 2015」に出展
 - 4月 ●三協アルミ
「富山県ものづくり総合見本市」に
出展
 - 三協アルミ「エクステリア・エキシビション 2015」に出展
 - 5月 ●三協立山
【BCリーグ公式戦】
「東日本大震災遭難者支援試合」として 三協立山グループ冠
試合を開催


三協立山グループ 「CSR報告書2015」を読んで

神戸大学大学院 経営学研究科

教授 國部 克彦



地域貢献型のCSR活動

三協立山グループのCSR活動は、地域貢献型CSRという特徴があります。同グループが力を入れている「健康経営(特集2)」、「ダイバーシティの推進(特集3)」、「産業観光振興(特集4)」をはじめ、「地域社会とともに」の諸活動、「従業員とともに」の諸活動、そして富山県が推奨する「企業の森づくり」への参画などは、すべて地域貢献型の活動として評価できます。CSR活動の中で、地域社会への貢献は、世界的に見ても、非常に重要な項目として認識されています。これは富山県に基盤をおく三協立山グループならではの活動で、内容も高く評価できます。今後は、地域貢献活動をCSR活動の中心として位置づけられれば、事業戦略上も好ましいと思います。

グローバル活動の中でのCSR

三協立山グループは、現在、海外展開に力を入れておられます。今後は、海外拠点でのCSR活動が非常に重要になると予想されます。海外での事業を成功させるにはその地域に受け入れられる必要があり、その時に三協立山グループのこれまでのCSR活動の経験が活かせるように展開していく必要があります。情報開示に関しても、日本と海外ではかなり違いますので、海外展開を意識したCSR情報開示が重要になります。現在の海外展開は、中国とASEAN、欧州が中心ですので、欧州中心に普及しつつある統合報告のフレームワークなどが参考になると思います。その時には、社会を含めた広い意味での価値創造に対する企業の方針を示していく必要があるでしょう。

CSR活動のフィードバックを

CSR活動を効果的に行うためにはPDCAサイクルを回すことが重要です。特に、CSR活動の内容を評価して、次年度の計画にフィードバックするところが大切になります。このフィードバックプロセスには、企業外部のステークホルダーの声を反映させることも重要ですし、経営トップ層がどのように活動を評価して、次年度につなげるのかを検討して、その内容を表明することができれば最善と考えます。CSR活動は社会に対する一方の活動ではなく、双方向の活動であるべきですので、今後の課題としては非検討していただきたいと思います。これは、ステークホルダーエンゲージメントの一環として実行することも有効です。

ステークホルダーエンゲージメントとは

企業が社会的責任を果たしていくために、対話などを通じてステークホルダーと積極的にかかわりあう活動

編集方針

「CSR報告書2015」の発行にあたって

三協立山グループは、ステークホルダーの皆様への適切な情報開示を重要と考えています。

2001年に「環境報告書」として環境保全活動に関する情報開示をスタートしました。2005年からは「社会・環境報告書」として社会性に関する取り組みについても報告してきました。そして2007年からは、より自主的に社会的責任を果たしていく姿勢を明示し、タイトルを「CSR報告書」と改め、現在に至っています。

今回の報告書では、4つの特集を設けました。

特集1「環境技術」では、当社のブランドメッセージ「Life with Green Technology ~環境技術でひらく、豊かな暮らし~」に関連し、当社の製造技術が風力発電用ブレードに活かされた例を取り上げました。

特集2「健康経営」では、従業員の健康の保持・促進を経営的な視点から捉え、当社の取り組みの紹介と制度利用者の声を掲載しました。

特集3「ダイバーシティの推進」では、多様な人材が活躍している一例として、企業認知度向上を目的とした女性のワーキングメンバーが企画立案から実施まで取り組んだ様子を、座談会風に紹介しました。

特集4「産業観光振興」では、産業観光を通じた地域活性化策の一環として、2014年4月より開始した、一般のお客様へのアルミ工場見学の受け入れについて、その状況を報告しています。

当グループの経営理念は、「お得意先」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神です。この報告書の中で、経営理念に基づくさまざまな取り組みを紹介していますので、これらを通じて当グループをご理解いただけましたら幸いです。

対象期間

2014年6月1日から2015年5月31日

活動内容については、一部2013年度以前のもの、および2015年度のものも含みます。

対象範囲

●三協立山株式会社

●三協アルミ社：新湊工場、佐加野工場、福光工場、福岡工場、氷見工場、福野工場、射水工場

●三協マテリアル社：高岡工場、新湊東工場、石川工場、奈良工場、戸出工場

●タテヤマアドバンス社：横浜工場

●関連会社：ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ、石川精機

参考にしたガイドライン

・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版、2007年版)」

・環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

シンボルマーク「ツインリーフ」



ハート型の葉を持つ新芽のマークは、覚えやすく親しみやすい形です。
このマークを介して、お客様、お得意様、株主・投資家の皆様はもちろん、地域の方々や社員との良好なコミュニケーションを築けるように願っています。
人と人、社会と企業というつながりをフリーハンドの曲線でやわらかく表現し、
シンボル化しています。「社会と私たち」「お客様と私たち」「環境と私たち」…
など“心と心を結ぶシンボル”として位置付けています。

三協立山 会社概要

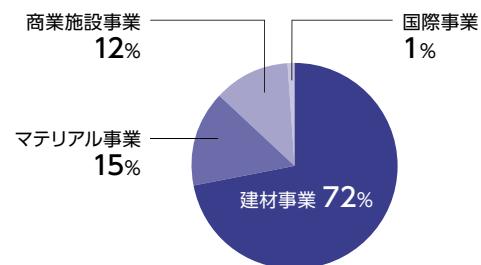
会 社 名	三協立山株式会社 (英文名称 Sankyo Tateyama, Inc.)
設 立 年 月 日	1960年6月20日
所 在 地	本社 富山県高岡市早川70番地 東京オフィス 東京都中野区中央1-38-1<住友中野坂上ビル20F>
代 表 者	代表取締役社長 山下 清胤
U R L	http://www.st-grp.co.jp/
(2015年5月期)	
資 本 金	150億円
従 業 員 数	5,707名
連 結 従 業 員 数	11,320名
連 結 売 上 高	2,923億91百万円
経 常 利 益	79億28百万円
総 資 産	2,705億57百万円
事 業 内 容	<p>1.ビル用建材・住宅用建材・エクステリア建材の開発・製造・販売。アルミニウムおよびその他金属の圧延加工品の製造・販売。</p> <p>2.アルミニウムおよびマグネシウムの鋳造・押出・加工ならびにその販売。</p> <p>3.店舗用汎用陳列什器の販売。規格看板・その他看板の製造・販売。店舗および関連設備のメンテナンス。</p>

○連結売上高および経常利益



※2012年5月期までは三協・立山ホールディングス株式会社の実績

○事業別売上げ構成比 (2015年5月期)



三協立山株式会社

三協アルミ社 <建材事業>

環境・安心への配慮と機能美を追求したデザインで快適な住空間を提供する住宅・エクステリア建材と高度な建築に最新技術で応えるビル建材の開発・生産・販売を行っています。

- 住宅建材 玄関ドア、窓、防犯配慮商品、インテリア建材、窓まわり商品、その他
- エクステリア 門扉、フェンス、カーポート、テラス、サンルーム、サイクルポート、通路シェルター、その他
- ビル建材 サッシ・ドア、カーテンウォール、改裝、フロント、手すり、内外装建材、環境商品、その他



三協マテリアル社 <マテリアル事業>

アルミニウム、マグネシウム合金の押出形材を中心に、輸送・電気・産業機器の部材等、多様な用途向け製品を手がけています。合金鋳造から押出・加工までの一貫生産体制を整えています。

- アルミニウム、マグネシウムの鋳造・押出・加工
押出加工品採用実績:電気機器、輸送機器、産業機械、OA機器、土木・仮設資材、家具、福祉機材、その他
鋳造:アルミニウム合金ビレット、マグネシウム合金ビレット



タテヤマアドバンス社 <商業施設事業>

店舗什器とサイン・看板を軸に、店舗づくりの提案から、設計・製作・施工・メンテナンスまでトータルに行っています。海外での生産・販売拠点を中国上海に置いています。

- 商業施設 汎用・専用什器、カウンター、ディスプレイ什器、その他
- サイン スタンドサイン、ファーサードサイン、突出しサイン、大型サイン、壁面・吊下げサイン、掲示板、屋内外サイン
- 店舗メンテナンス 店舗メンテナンス、店舗リニューアル



海外拠点



2015年5月現在



 三協立山株式会社

総務部 CSR・コンプライアンス推進課
〒933-8610 富山県高岡市早川170番地
電話 0766-20-2550 FAX 0766-20-2082
ホームページアドレス <http://www.st-grp.co.jp/>